GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

# 週刊 EVANGELION CHRONICLE 新訂版

エヴァンゲリオン・クロニクル

## 22

定価690円(税込)
2010/7/6

**Mechanic Sheet**
第16使徒アルミサエル
銃火器

**Character Sheet**
惣流・アスカ・ラングレー C

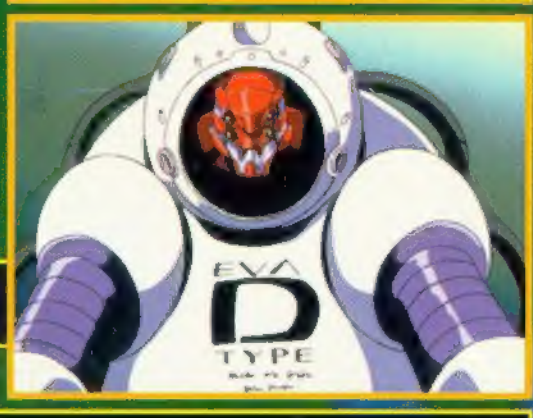
**Tactics Sheet**
サードチルドレン
初号機占拠事件

**Installation Sheet**
浅間山地震観測研究所

**Timeline Sheet**
男の戦い

**Technology Sheet**
EVA支援装備

**Extra Sheet**
用語辞典／企画書／トピックス



DeAGOSTINI

インターネットでパートワークをより楽しく deagostini.jp

エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版

# EVANGELION CHRONICLE

# 22

目次 | CONTENTS


Mechanic Sheet メカニックシート
第16使徒アルミサエル 01-04
銃火器 21-22

Character Sheet キャラクターシート
05-08 惣流・アスカ・ラングレー C

Tactics Sheet タクティクスシート
サードチルドレン初号機占拠事件 09-10

Installation Sheet インスタレーションシート
11-12 浅間山地震観測研究所

Timeline Sheet タイムラインシート
男の戦い 13-16

Technology Sheet テクノロジーシート
17-20 EVA支援装備

Extra Sheet エクストラシート
用語辞典 23-24
企画書 25-26
トピックス 27-32


新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで！

PCサイト
▶http：//www.gainax.co.jp/anime/eva/
携帯サイト▶http：//wpp.jp/eva/ ココからGO！
エヴァンゲリオン オフィシャルストア
▶http：/www.evastore.jp/


週刊エヴァンゲリオン・クロニクル新訂版

［発行日］ 2010年7月6日
［発　行］ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0045
東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
［発行人］ 小河原和世
［編集人］ クロス中山慶子
［チーフエディター］ 安部 翠
［印　刷］ 大日本印刷株式会社


©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.


［編集協力］ 株式会社ウィーヴ（石川裕人／田代 豪／大久保圭／本多らな）
［監修］ 株式会社ガイナックス


©GAINAX・カラー／Project Eva. ©GAINAX・カラー／EVA製作委員会


＜オリジナル版＞
［編集協力］ 有限会社 メガロマニア（富田英樹／高村泰稔／渡邊洋三／加藤和弘／山田展寛／桑木貴章／鈴木秀治／公森直樹）
［執筆］ TRAP（西川紗矢／遠藤智子）／種子島貴／ぽろり春草
［イラスト］ 市川裕文／深野洋一（M.I.C.）／射尾卓弥
［デザイン］ ローカル・サポート・デパートメント（島田英明／角田正明）
株式会社 インフォビジョン（河野幹哉／安川純史／田中治彦）
＜新訂版＞
［編集協力］ スタジオ・ハードデラックス株式会社（伊藤桃香／米良真一）
［デザイン］ スタジオ・ハードデラックス株式会社（松本優典）

●書店向け注文受注センター
（書店様からのご注文を承ります）
TEL 03-5212-5311
（月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く）
FAX 03-5212-5312
●読者サービスセンター
（本誌関連の一般的な質問を承ります）
TEL 0570-008-109
（月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く）
※本商品は2007年に刊行された『エヴァンゲリオン・クロニクル』（発売：ソニー・マガジンズ）に改訂を加えて刊行するものです。


本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/eva/

## 定期購読のご案内

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は、毎週火曜日発売です（一部地域を除く）。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

**1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで**
0120-300-851
（9:00～21:00 年中無休）
FAX 0120-834-353
（定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付）

**2. インターネットで**
http://deagostini.jp/eva/ （24時間受付）
※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

**3. 定期購読申し込み用紙を郵送**
（「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。）

## 特製バインダー発売のお知らせ

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠なバインダー2・3巻の2冊セットを7月上旬に通常価格1,790円（税込）で発売する予定です。

※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。


下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報のお取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を利用目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等をすることはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳重に管理いたします。 4. 個人情報提供の任意性 個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手続きがとれない場合もあります。（購入に関するお問い合わせは定期購読受注センター：0120－300－851へ） 5. 個人情報に関する開示請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパンCRM部部長 電話番号：03－5309－8286 ＊受付時間 10:00－18:00（土日祝日、弊社休業日を除く）＊弊社ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。 http://deagostini.jp/security/

第16使徒

# アルミサエル

ヒトの心に接触を試みた使徒

UNKNOWN

SIXTEENTH ANGEL

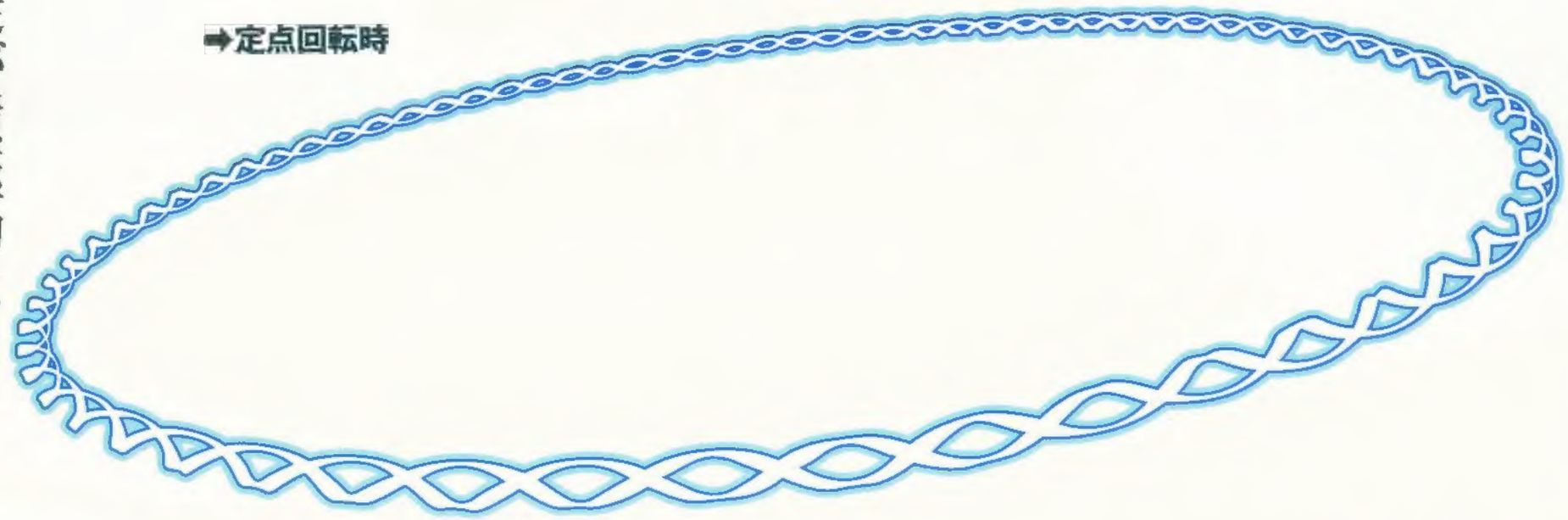
# ARMISAEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

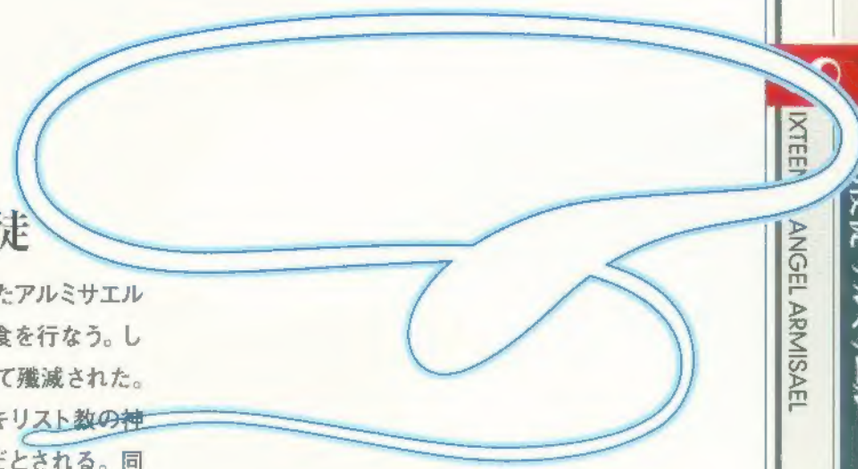
Illustration by (twinbell) Tokiko Yuzawa

# 使徒が積極的に一次的接触を試みているの？

零号機と（赤木リツコ）



➡定点回転時



⬆紐状形態時

## 第16使徒 アルミサエル

SIXTEENTH ANGEL ARMISAEL

SIXTEENTH ANGEL ARMISAEL

**DATA**

呼称：16th ANGEL
**第16使徒**

天使名：ARMISAEL
**アルミサエル**

象徴：SYMBOL
**子宮**

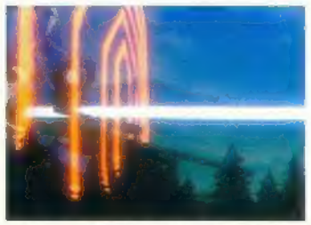
能力：ABILITY
**侵食**
**形状変化**

## EVAとの生体融合によりヒトの心に触れた使徒

残り数体の時点で「知恵を身に付けはじめた」という使徒。その“知恵”こそが、アダムと接触するための障害でしかなかったEVAとヒトに興味を持たせ、知ろうとさせたとも考えられよう。その中でもアルミサエルは、EVAと同化することでヒトの精神に接触を試み、ヒトの心、感情を知り得た使徒といえる。

大涌谷上空にて滞空していたアルミサエルは、EVA零号機に接触して侵食を行なう。しかし同機の自爆に巻き込まれて殲滅された。

アルミサエルは、ユダヤ、キリスト教の神秘主義では子宮を司る天使だとされる。同使徒はまるで、零号機のコアを子宮のようにして中に抑え込まれ、殲滅されてしまう。



A.T.フィールドを容易く貫いて零号機と一次的接触を試みるアルミサエル。さらに侵食を続け同機と融合していく。

精神世界において、使徒と思しき意志と対話を行なうファーストチルドレン。そこで使徒はヒトの心に触れる。

接触により綾波レイの気持ちを知ったアルミサエルは、彼女が求める相手が乗るEVA初号機へと侵食を開始した。

### 関連事項 RELATED MATTERS

- 第3新東京市
- EVA零号機
- 綾波レイ
- 使徒

使徒迎撃のための要塞都市。アルミサエルを巻き込んだ零号機の自爆により、都心部はクレーター状になってしまう。

# アルミサエルの体構造

DNAのような二重らせん構造を持つ姿は発光しており、天使の光輪のようにも見える。なお、スナイパーライフルによる超至近弾ですら弾き返す硬度を持つ。

細菌などに内在するプラスミドDNA分子のように、環状の二重らせん構造を持つ。この状態でパターンを青からオレンジへと周期的に変化させ、定点回転をしながら大涌谷で滞空していた。

## 侵食による一次的接触

触れるだけで対象の生体部品を犯して融合していく侵食能力を持つ。攻撃時は環状から紐状に展開。その姿は蛇のようで、A.T.フィールドの展開を察知したかのように対象へと迫る。

EVAの体内へ潜り込み、葉脈のように広がって侵食していく。この強引な一次的接触は苦痛と共に快楽をも生み、当然ながらEVAと連動した操縦者の精神も影響を受けた。

## 身体の変化

環状から紐状への変化だけではなく、零号機との融合が進みファーストチルドレンの心に触れ彼女の気持ちを汲み取ったアルミサエルは、形状の一部を綾波レイの姿へと変化させている。

綾波レイと接触した影響か、紐状の身体から人間の手足や体が無数に生えているアルミサエル。これはセントラルドグマ最深部に幽閉されているリリスの下半身と酷似した光景である。

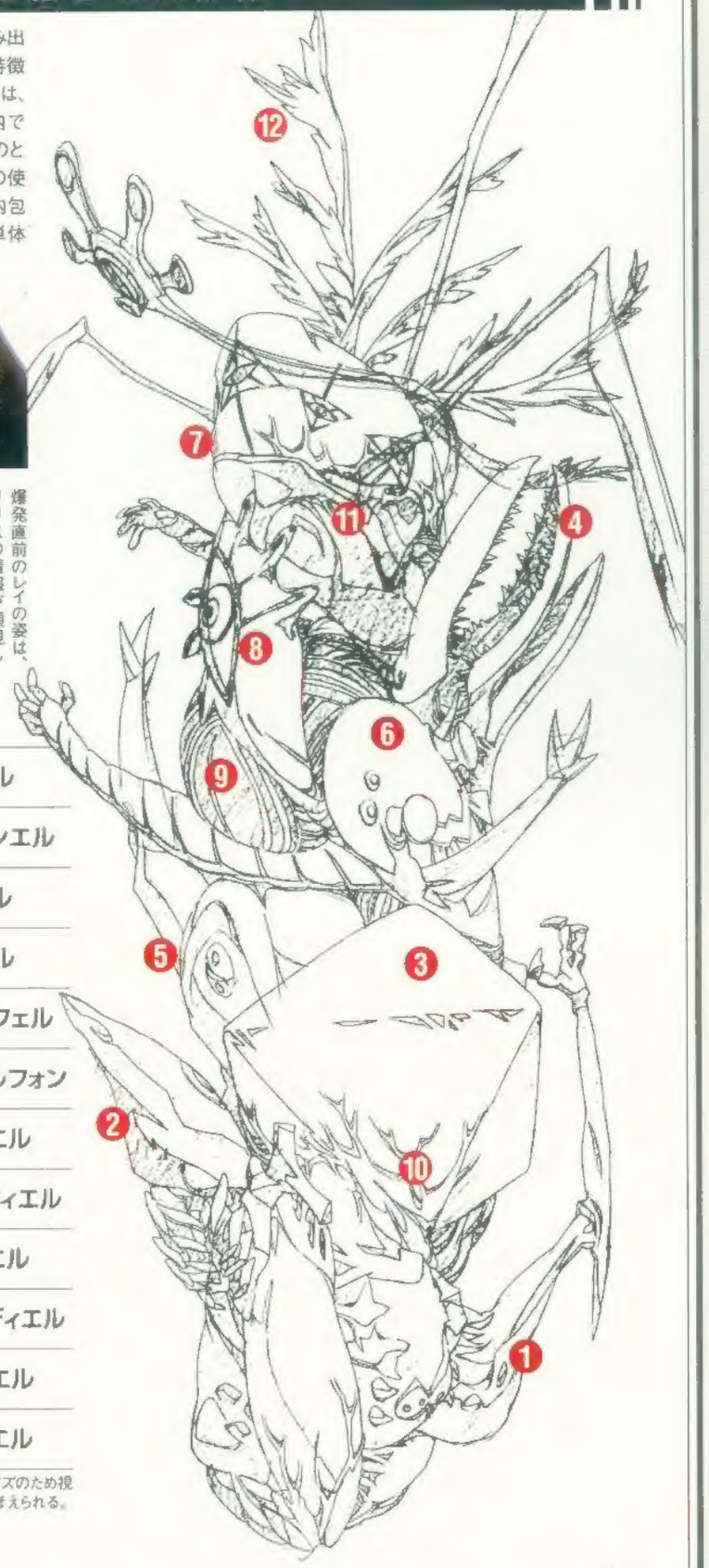
⬇手足の生えたアルミサエル

## 使徒の姿を顕在化させた物体

使徒に侵食された零号機から生み出された肉塊。第3～15使徒までの特徴を包括していると考えられるこの物体は、融合が進んだことにより零号機の内で使徒の情報が暴走、顕在化したものとも推測できる。このことから、1体の使徒はそれまで全ての使徒の情報を内包しており、使徒が情報を共有する単体生命だと推測することもできよう。

使徒の姿の物体は零号機自身の生体部品から沸き立つように発生した。

爆発直前のレイの姿は、リリスの情報が顕現したものかもしれない。




### 顕在化した使徒の姿➡

1. 第3使徒サキエル
2. 第4使徒シャムシエル
3. 第5使徒ラミエル
4. 第6使徒ガギエル
5. 第7使徒イスラフェル
6. 第8使徒サンダルフォン
7. 第9使徒マトリエル
8. 第10使徒サハクィエル
9. 第12使徒レリエル
10. 第13使徒バルディエル
11. 第14使徒ゼルエル
12. 第15使徒アラエル

※第11使徒イロウルはマイクロマシンサイズのため視認できないかたちで顕れているものと考えられる。

# アルミサエルの活動記録

強羅から第3新東京市に接近したアルミサエル。大涌谷上空で滞空後、零号機へと先制して侵食による一次的接触を行なう。その際、綾波レイの内的世界においてヒトの心と接触を果たす。そこで碇シンジと一体化を望む彼女の気持ちをも取り込み、出撃した初号機への侵食を開始。しかし、自分の願いがシンジへの侵食を促していると気づいたレイによってわざと融合が促進され、零号機のうちに抑え込まれる。その直後、融合していた同機の自爆に巻き込まれ殲滅されてしまう。

強羅絶対防衛線を突破したアルミサエルは大涌谷の上空にて滞空。その後、零号機と一次的接触を試み融合を図ろうとする。

侵食を拒んでいた零号機のA.T.フィールドが反転、逆に融合が急速に進められたため初号機から引き離されたアルミサエル。

### アルミサエル侵攻記録

- アルミサエル殲滅
- ▶ 零号機の自爆に巻き込まれ活動停止
- ▶ 初号機と交戦、侵食する
- ▶ 零号機と交戦、侵食する
- ▶ 大涌谷上空にて滞空、定点回転を続ける
- ▶ 強羅絶対防衛線を突破

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

キャラクターシート
# Character Sheet

惣流・アスカ・ラングレー
ASUKA LANGLEY

Sheet 03 C

2nd Children
# 惣流・アスカ・ラングレー
SORYU ASUKA LANGLEY

NERV

# 戦いの果てに失意を抱いた少女

Illustration by Youichi Fukano

# 惣流・アスカ・ラングレー

SORYU ASUKA LANGLEY

## 個人情報

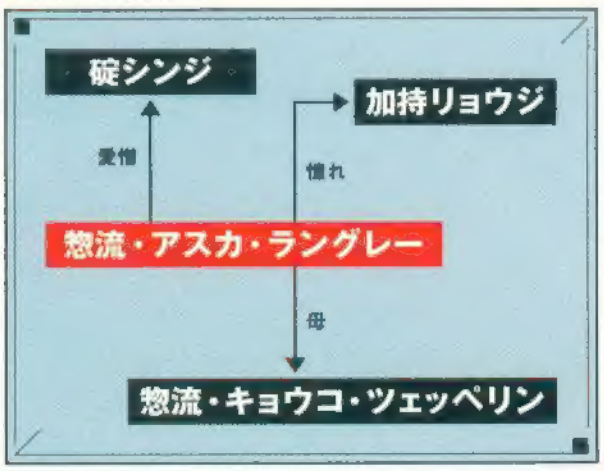
| | |
|---|---|
| 名前 | 惣流・アスカ・ラングレー |
| 年齢 | 14歳 |
| 国籍 | アメリカ合衆国 |
| 生年月日 | A.D.2001/12/04 |
| 血液型 | A型 |
| 所属 | NERV/EVA弐号機専属操縦者 |

自信に満ち溢れた明朗快活な適格者――惣流・アスカ・ラングレーという存在は、実は不安定な精神を宿す非常に脆い存在であった。

EVAに乗る理由について「自分の才能を世に示すため」と言い、「自分で自分を誉めてあげたい」などと口にしていたアスカ。EVAに乗ることでしか自身の存在価値を認められなかった彼女は、異常なほどに高いプライドを持っていた。それが長所としてプラスに働いているときはよいのだが、マイナスに向いた場合にはEVAに乗ることすらままならない状態に追い込まれてしまう。そもそも、そういった彼女の性質は母に関するトラウマから生まれた「自分が一番でなければ、誰も見てくれない」という思考に起因していると考えられる。そのプライドは実質的には前向きなものとは言い難く、空虚なものであったとすら言えるだろう。また、そういった不安定な心理はシンジに対する接し方にも表れており、基本的には馬鹿にするような態度を取っておきながら、気になる異性として見ていることが明らかな言動も多く見られる。シンジと同居し始めた当初は、目立つほどのものではなかったのだが、次第に愛情と敵意といえる程に振り幅が大きくなっていったようだ。

EVAに乗って戦うことやそれに付随する人間関係により、アスカの精神は少しずつ安定を失い、ついには崩壊していく。彼女を支えていたのはEVAに乗って使徒を倒しているという事実と実績だったが、その戦いの果てに待っていたのは、「誰も自分を見てくれない」という失意だったのである。

## 人物相関図




## 関連事項

■碇シンジ
■惣流・キョウコ・ツェッペリン
■加持リョウジ

EVA初号機専属操縦者。訓練経験などはまったくないにもかかわらず、初めての搭乗で初号機とのシンクロを果たした。

## 表情／水着／私服

←来日当初の好戦的な時分にはあまり見られなかった、曖昧な表情。戦闘前後にも見せるようになったこういった表情からは、精神面での変化が窺える。

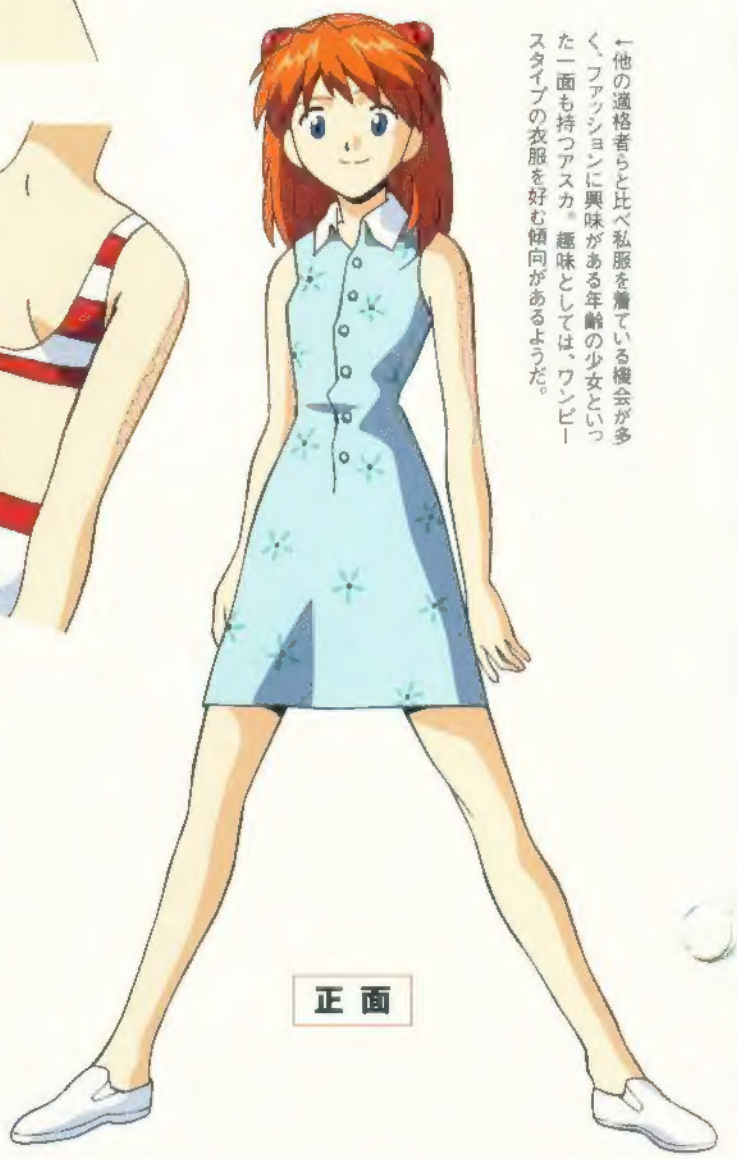
第15使徒アラエルと対峙する直前のアスカ。彼女の表情には強い決意と共に、失敗できないという焦りが見え隠れしている。

正面

背面

↑焦りをあらわにした表情。シンクロ率低下が影響し、活躍の場が少なくなったアスカは、このような表情を多く見せるようになる。

↑→修学旅行に行けなかったアスカが旅行気分を味わおうと考え、NERV本部のトレーニングプールで泳いだ際に着用していた水着。さらに、旅行のスケジュールにあったスクーバ用の装備まで用意していた。ちなみに水着は修学旅行のために購入したもので、買い物には加持が同伴していた。



←他の適格者らと比べ私服を着ている機会が多く、ファッションに興味がある年齢の少女といった一面も持つアスカ。趣味としては、ワンピースタイプの衣服を好む傾向があるようだ。

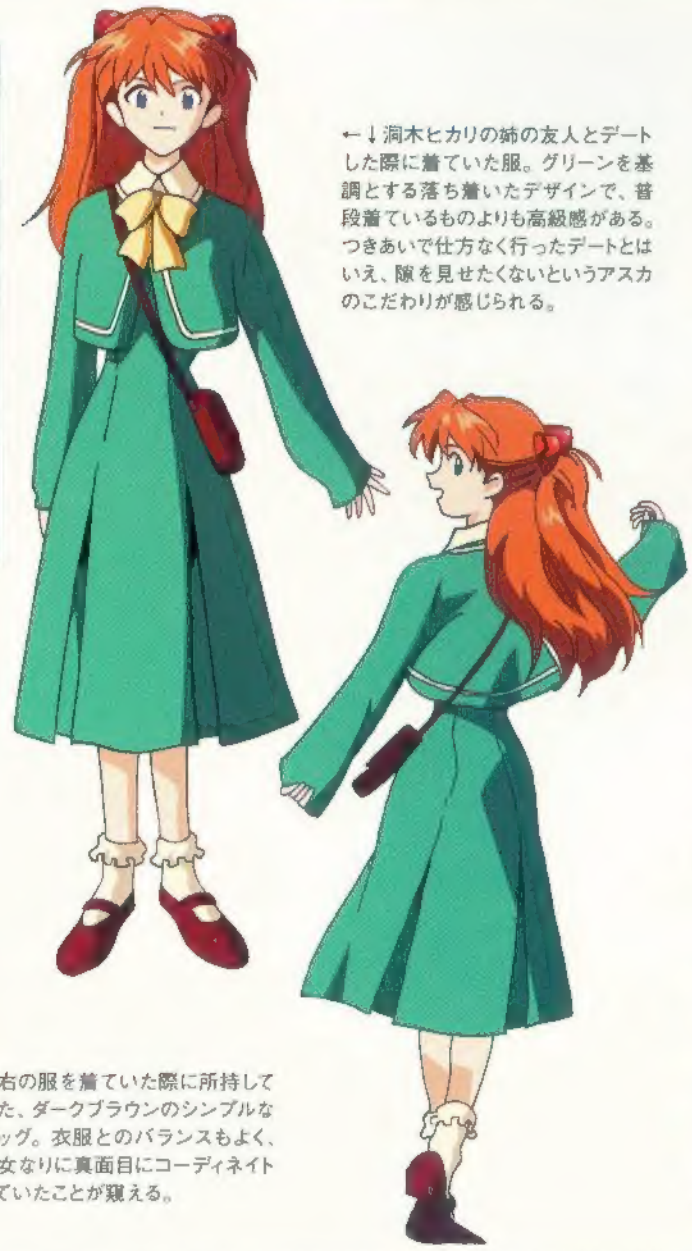
正面

ノースリーブのシャツとプリーツスカート。家では比較的ラフな格好をしていることが多いアスカにしては珍しい出で立ちだ。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

# 惣流・アスカ・ラングレーが求めたもの

←右の服を着ていた際に所持していた、ダークブラウンのシンプルなバッグ。衣服とのバランスもよく、彼女なりに真面目にコーディネイトしていたことが窺える。



←↓洞木ヒカリの姉の友人とデートした際に着ていた服。グリーンを基調とする落ち着いたデザインで、普段着ているものよりも高級感がある。つきあいで仕方なく行ったデートとはいえ、隙を見せたくないというアスカのこだわりが感じられる。

シンクロ率の数値をシンジに抜かれたころから、精神的な不安定さを表出させ始めるアスカ。幼いころより適格者として育てられた彼女にとって、馬鹿にしていたシンジに負けたのは耐え難い出来事だったと考えられる。その後も、第13使徒バルディエル、第14使徒ゼルエルに一方的な敗北を喫し、彼女のプライドは音を立てるように崩れていく。そんな中、第15使徒アラエルとの戦闘中に心理攻撃を受けて心の闇を晒されることとなったアスカは、EVAを起動するだけのシンクロ率すら保つことができなくなってしまう。EVAに乗り、自分の存在を誇示することのみに存在理由を求めていた彼女は、すべてを失い廃人同然となってしまった。

しかし、NERV本部が戦略自衛隊に襲撃を受けた際、EVA弐号機の中に退避させられていたアスカは、母の魂らしき存在に気づく。幼い頃より彼女が求め続けていた「母親が自分を見てくれる」ということを初めて実感した彼女は、戦略自衛隊、EVAシリーズを相手に、再び活躍を見せることとなる。

弐号機の危機に際しては待機していた初号機が、第16使徒戦での零号機の危機においては出撃命令を出された時、アスカは自身が軽視されていると感じ、そのプライドを深く傷つけられた。

# 母親の記憶が与えた影響

人形めいた存在であるレイを嫌うのも、かつて母が「人形をみずからの娘と思い込んでいた」という記憶に由来するものと推測される。

アスカのパーソナリティが形成される過程で、最も大きな影響を与えたのは彼女の母、惣流・キョウコ・ツェッペリンだろう。彼女はEVAとの接触実験に失敗し、精神汚染の影響で、人形を娘と思い込むようになっていた。そのころの記憶が、「母が自分を見てくれない」という意識を強固なものにしていると考えられる。さらに、アスカがセカンドチルドレンに選出された日、母に報告に向かった彼女が見たのは、縊死した母の姿だった。この出来事が「選ばれた存在なのに、見てもらえない」というトラウマを生み出すこととなり、プライドが高く、自己顕示欲が強い現在のアスカを形成したと考えられる。

# 喪失が与えた影響

徹底的に嫌っているレイに助けられたという事実は、アスカにとって許容できないものだった。これ以降、プライドを喪失し、自暴自棄な言動が目立つようになっていく。

加持を失ったことは、傷ついたアスカに追い討ちをかける。それを愛憎半ばの感情を向けるシンジの口から聞かされたことも、アスカにとっては受け入れ難いものであったと思われる。

来日し、使徒との戦闘を繰り返すようになってから、アスカは自身の大切なものを次々と喪失している。シンクロ率の低下や度重なる敗北、毛嫌いするレイに助けられたことなどによりプライドを失い、彼女は自暴自棄となる。

加えて、アスカが強く想いを寄せていた加持の存在も同様に失うこととなる。第15使徒の精神攻撃により、憧れている加持と、馬鹿にしているシンジがアスカの心の中でほぼ同じ位置にあることが暴かれる。その上で彼女は、シンジから加持が死んだことを告げられた。それが直接的なきっかけとなり、アスカの精神崩壊を招いたものと推測される。

# 人類補完計画進行時の行動

一度は殲滅しながらも、再生したEVAシリーズに完膚なきまでに打ちのめされ、食い荒らされる弐号機。儀式めいた人類補完計画のために捧げられた生贄のようでもある。

初号機を依代とした人類補完計画が実行に移される直前、弐号機に母の魂と思われるものが宿っていることを知り、アスカは一時的に戦線復帰する。見事に戦略自衛隊を撃退した弐号機を待っていたのは、9機のEVAシリーズだった。アスカは「母が見ているのに負けられない」という思いで孤軍奮闘し、一度は相手を全滅させるものの、S²機関を搭載するEVAシリーズは、時間をおいて再生。活動限界に達した弐号機は、成す術もなく蹂躙された。なお、EVA初号機に乗ったシンジがその凄惨な様子を目撃し、精神の安定を大きく崩したことも、補完計画のひとつの要因となったものと考えられる。

# EVA弐号機が与えたもの

弐号機に向かい、兵器に心などあっても邪魔だと言うアスカ。この時点では、母の魂と思われるものに気づいていなかったようだ。

EVA弐号機に対して強い思い入れを持つ様子を見せつつも、結局のところはただの兵器としてしか捉えていなかったアスカ。それが、EVAとのシンクロを阻害する要因でもあったと考えられる。

しかし、母の魂と思われるものの存在を知ったとき、アスカはそれまでにない力強さを得る。EVAに乗ることと母に見てもらうことが、彼女の中ではっきりと繋がり、さらに母が守ってくれているという感覚は、それまでの自己顕示欲に基づいた空虚な自信とは異なる確かな力をアスカに与えたのである。この際のシンクロ率は数値化されていないが、恐らく彼女の持つ最高値を更新したものと推測される。

# 補完の果てに見たもの

人類の補完が進む中、精神世界と思われる場所でシンジを責めるアスカ。相手をしてくれれば誰でもいいという思考が、アスカにとって許し難いものだったのだろう。

補完を拒んだ世界に残されたアスカとシンジ。自分の首を絞めるシンジに対して手を差し伸べた直後、アスカは「気持ち悪い」と突き放すようにつぶやいた。

人類補完計画の進行中、シンジの精神世界において、彼と対峙したアスカ。そこでは、シンジに対する愛憎入り混じった感情が明らかになる。「あんたが全部私の物にならないなら、私、何もいらない」という言葉には、彼女の感情が集約されている。しかし、アスカの感情と比較して、シンジの感情は非常に曖昧なものであり、ただ「楽な居場所」としての彼女の存在を求めた。逃げる場所にされたという事実はアスカを傷つけ、彼女はシンジを受け入れることを拒否した。結果として初号機を依代とした人類の補完は成されなかったが、残されたふたりの関係がどのような変化を見せたかは定かではない。

## 追加報告

### もうひとつの世界

補完計画が進む中、シンジが気づいた「EVA操縦者ではない自分の世界」の可能性。その世界におけるアスカは、シンジの幼馴染という位置付けであった。シンジに好意を寄せつつも、素直にそれを表現できない普通の中学生。もうひとつの世界におけるアスカが、複雑な感情ではなく普通の恋心を抱いているあたりには、シンジが深層心理で望む姿が反映されているのかもしれない。

陽気な部分や攻撃的な部分など、表面上の性格は両世界とも似通っているようだが、この世界のアスカには本来の世界の彼女が持つような脆さは見受けられない。これはEVAとは関係のないもうひとつの世界で生きるアスカは、当然、トラウマを持つこともなかったためだろう。

もうひとつの世界のアスカは、登校前にシンジを家に迎えに行っているようだ。シンジの両親に礼儀正しく挨拶する姿からは、性格面での変化も見受けられる。

シンジに突っかかるレイと、それに噛ってかかるアスカ。もうひとつの世界においても、レイに対してはあまりよい感情を持ってはいないようである。

気の強い性質、同級生の男子を馬鹿にする態度などは、両世界共通。ただ、こちらの世界のほうが表情は豊かなようだ。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

タクティクスシート
# Tactics Sheet

# サードチルドレン初号機占拠事件 Sheet 22

EVA-01 SEIZURE BY THE THIRD CHILDREN

Illustration by Takuya Io

第13使徒バルディエル迎撃作戦終了後、初号機パイロットである碇シンジは、ダミープラグによる戦闘を不服とし、エントリープラグ内に立てこもった。しかし、碇司令の的確な判断によって、事件は速やかに解決する。事件後、NERVは初号機の非常用ハッチをレーザーカッターで切断、サードチルドレンは気を失ったまま、エントリープラグより強制排除された。

## サードチルドレン初号機占拠事件

### 初号機パイロットが引き起こした事件 父親への反抗と、その顛末

TACTICS SHEET

第13使徒バルディエル迎撃戦中、初号機パイロットのサードチルドレンは、敵を目前にして戦闘を拒否。この異常事態に対し、NERV総司令官であり、サードチルドレンの父である碇ゲンドウは、ダミープラグの使用を決断。初号機を自律行動させることで使徒殲滅に成功した。しかし、作戦終了後、サードチルドレンは、この命令違反だけでなく、さらなる問題を引き起こす。この戦闘における碇司令の判断を不服とし、謝罪を求めて初号機に籠城。NERV本部を破壊すると脅迫行為におよぶのであった。

このとき、機体には185秒稼働可能な内部電源が残っており、その戦闘能力と活動時間を駆使することで、実際に本部施設の半分を破壊できた。さらにサードチルドレンは本部からのエントリープラグに対する外部コントロールに対して、内側からロックしており、パイロットの強制排除は不可能であったため、この脅迫は子供じみた行為ながら、その効果は絶大であった。発令所にいたオペレーターの面々は説得を試みたが、サードチルドレンはスタッフ、および碇司令への罵倒を繰り返すのみ。このような冷静さを著しく欠いたパイロットの心情を鑑みれば、本当に本部を破壊しかねない状況であった。しかし、この異常事態に対し、碇司令は親子の感情におぼれることなく、沈着冷静に対処する。エントリープラグ内のL.C.L.圧縮濃度を上げることをオペレーターに指示。パイロットを一時的に呼吸困難に陥らせることで失神させ、この造反事件を収拾させた。

EVAを占有したサードチルドレンの背信行為は、ダミープラグ制御下の初号機が(元はEVA3号機であった)使徒をそのパイロットもろとも殲滅したことがその引き金となっている。また、使徒となったEVA3号機のパイロットは、サードチルドレンのクラスメイトであり、極めて親しい関係であったこと、その彼が(ダミープラグにより3号機のエントリープラグを握りつぶしたことで)重傷を負ったことも大きな要因であった。さらに碇司令と実子であるサードチルドレンとの、プライベート面での確執も遠因にあった。しかし、これらの事実を持ってしても彼の行動に情状酌量の余地がないことは明白。サードチルドレンはダミープラグの使用による操縦権の剥奪を不服としたが、そもそも使用に至ったのはパイロットの命令拒否が原因である。今回の事件は、EVAシリーズの操縦を精神的に未熟な少年少女に委ねなければならず、それゆえに軍事組織としては本来的にはあり得ない、パイロットの自由意志がある程度尊重されてしまう運用面でのデメリットが大きく現れた事例であったといえよう。そして、皮肉にもサードチルドレンの行動は、ダミープラグの有効性、および必要性を実証する結果となった。

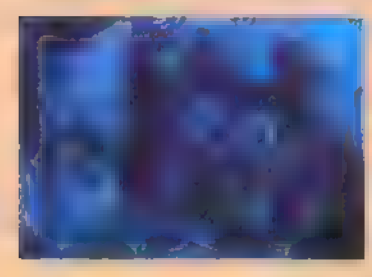
### 関連事項 RELATED MATTERS

- サードチルドレン
- EVA初号機
- 碇ゲンドウ
- L.C.L.
- 第13使徒バルディエル

初号機パイロットのサードチルドレンは、初号機への立てこもり事件を引き起こした。その背後には親子の確執があった。

## 初号機にみされた185kgの指示

EVA3号機は起動実験中、使徒に侵食されたため、第13使徒と識別された。初号機パイロットのサードチルドレンは、この使徒に自分と同年代のパイロットが搭乗していたことから戦闘命令を拒否。結果、ダミープラグが使用され、EVA3号機パイロットは初号機によりエントリープラグもろとも握りつぶされてしまう。戦闘後、EVA3号機のパイロットが自分のクラスメイトであったことを知ったサードチルドレンは、ダミープラグの使用を不服として、一連の立てこもり事件を引き起こすことなる。しかし、碇司令は稚拙な恫喝には取り合わず、L.C.L.濃度の上昇を即決。パイロットを失神させることで、事態を収拾した。



初号機に立てこもったサードチルドレンであったが、エントリープラグ内のL.C.L.圧縮濃度を高められ一時的な呼吸困難状態に陥り失神。外部から非常用ハッチをレスキューカッターで切断し、作業員によって機体外部へ連れ出された。

サードチルドレンこと碇シンジは事件後、EVAを用いた反逆行為に対して罪を問われ、NERV本部内の拘束室にて拘禁されていたが、碇ゲンドウ司令の指示により、直接司令の執務室にて面会することとなる。

**第13使徒バルディエル戦終了後、初号機パイロットは機体を降りることを拒否。EVAを武器にNERVに対して、恫喝行為を行なった。その原因はバルディエル戦でのダミープラグ使用にあった**

## 初号機占拠の経緯

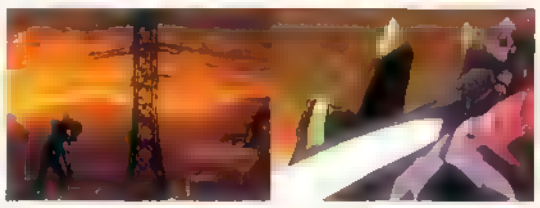
### 1 第13使徒の出現と迎撃作戦

NERV米国支部から松代へ運ばれたEVA3号機だったが、起動実験と同時に搬送中に侵入していたと思われる使徒が覚醒。3号機はパイロットごと使徒に乗っ取られてしまう。結果、3号機は第13使徒として迎撃、殲滅されることとなった。

3号機は第13使徒として NERV本部目指して侵攻。圧倒的な攻撃力で、EVAを各個撃破した。

### 2 初号機パイロットの戦闘拒否

明らかにEVAである使徒を見て、初号機パイロットは戦意を喪失。3号機に取り残されたフォースチルドレンの安否を気遣うあまり、本部からの攻撃命令を拒否し、初号機は使徒の攻撃を一方的に受け続けた。



使徒と対峙した初号機であったが、パイロットは戦闘命令を拒否。NERVはEVA全滅の危機に陥る。

### 3 ダミープラグによる初号機操縦権の剥奪

パイロットの命令無視に、碇司令は初号機のダミープラグの起動を決断。初号機は驚異的なパワーを発揮し、使徒殲滅を果たす。が、いわゆる無人操作で起動した初号機は、3号機のエントリープラグをも破壊してしまう。

戦闘後、初号機のパイロットは3号機パイロットが自らのクラスメイトであったことを知る。

### 4 初号機の回収とパイロットの立てこもり

作戦終了後、感情的になったパイロットは、初号機を占拠。さらにNERV本部内へ回収された初号機を使って、本部施設を破壊すると、恫喝行為に出た。しかし、エントリープラグ内のL.C.L.濃度を上昇させられたため、気を失った。

本部に収容された初号機であったが、パイロットは内部電源にて初号機を起動させ本部を破壊すると脅迫する。

## 技術調書

### エントリープラグ内のL.C.L.

初号機パイロットの立てこもりを解決したのは、エントリープラグ内のL.C.L.であった。この濃度を限界まで引き上げ、パイロットの呼吸を奪って、失神させることで事件は落着したのだ。そもそも、L.C.L.とは、EVAとパイロットの神経接続を促す液体である。また、この溶液は、肺内に入れることで直接酸素を取り込める生命維持循環システムでもあった。そのため、使用時の濃度は人間の循環器に適した状態に調整されており、その濃度を高めれば搭乗者は呼吸器系に支障を来たし、呼吸不全を引き起こしてしまう。なお、L.C.L.は生命のスープ、「原始の海水」に酷似したものとされているが、その生成元は明かされていない。一説によれば リリス(またはアダム)の体液であるとも言われている。

エントリープラグ内のL.C.L.は搭乗者の呼吸を助ける機能を果しているが、その濃度を高めれば呼吸不全を引き起こしてしまい、パイロットは昏睡不明となる。

通常時、エントリープラグ内はL.C.L.で完全に満たされ密閉状態となる。L.C.L.は搭乗者との神経接続のみならず、溶液自体がショックアブソーバーの役割も果す。

## 特記事項

### EVA「適格者」の共通項

EVAの操縦が可能な「チルドレン」と称される14歳の少年少女。彼らはセカンドインパクト後の出生、母親がいない、などいくつかの共通項がある。そして実はその適格者候補は、EVAパイロットが在籍する第3新東京市立第壱中学校に集められていたことが明らかとなっている。初号機パイロット造反の直接の原因も、3号機パイロットが彼の同級生であったためであった。

第3新東京市立第壱中学校2年A組。このクラスは適格者候補で編成されていた。この事実を知るものは、NERV内でもほんの一握りの人物に限られた。

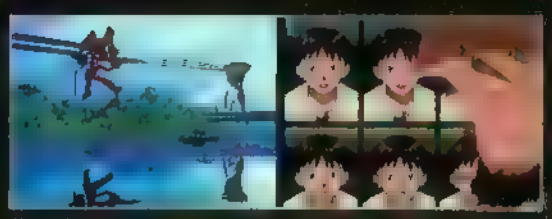
NERV本部に配置されているEVAのパイロット。綾波レイ、碇シンジ、惣流・アスカ・ラングレー。彼らと学籍は第3新東京市立第壱中学校2年A組に在籍している。

## 追加報告

### 初号機パイロットのその後

第壱中から釈放され、碇司令と執務室にて直接面会した碇シンジは、その場で初号機のパイロットを辞することを伝えている。その希望は即座に受理され、碇シンジはパイロットとしての登録を抹消。碇司令は、初号機の起動システムは綾波レイをベーシックは、ダミープラグでの運用を前提とした形に変更するよう指示している。だが、登録抹消はされたものの、手続き上の漏れがあったためか、本部へのパスコードはそのままの状態であり、碇シンジはNERV本部内へ出入りすることができた。そのため、第2次ジオフロント攻防戦に於いて彼は本部へと戻り、初号機への搭乗を司令に直接訴え、出撃を果している。

碇司令は執務室で待機されていた碇シンジと面会した。司令は彼の様子に「失望した」と一言。



第14使徒の攻撃を目撃したと思われる碇シンジは、いかなる心境の変化があったのか、初号機での出撃を思い出る。

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

Illustration by Takuya Io

噴気活動が活発な浅間山火口からマグマへと潜行し、その内部を観測するための巨大な無人観測機NERVの要請により深度1300m付近まで潜行し、謎の生命体、使徒の姿を捉えることとなる

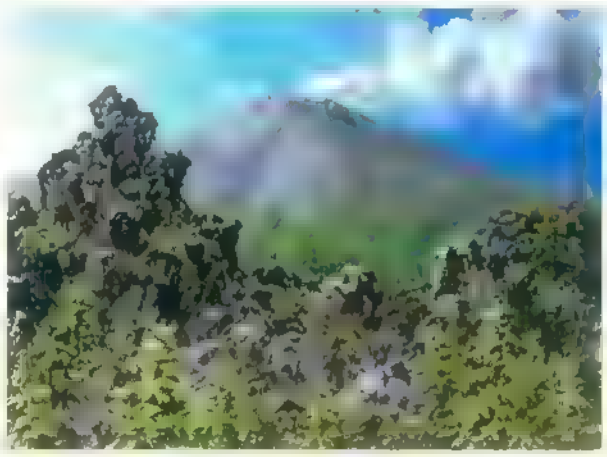
## 浅間山地震観測研究所

浅間山とそれを見守る施設の変遷

活火山とは、過去(およそ1万年以内)に噴火したことのある火山と、観測時において火山活動(噴火あるいは噴気活動)が確認される火山を指す。世界規模で見ると日本の領土は決して広大ではないが、その領土に有する活火山の数は非常に多い。そういった日本に存在する幾多の活火山の中でも、古くは有史以前から火山活動が活発であったとされ、気象庁が示す「火山活動度ランク」において活動度がもっとも高い「Aランク」の指定を受けている活火山 ──浅間山は、世界でも有数の活火山として知られる。近年は静穏な状態を保ってはいるものの、天仁(西暦1100年代)と天明(1780年代)の大噴火においては、広い範囲に甚大な被害が及んだと記録されている。同じくAランクに指定されている伊豆大島とならび、警戒すべき活火山といえるだろう。

2000年、その警戒すべき浅間山にさらなる負の要因を与える事象 ──セカンドインパクトが発生する。群馬県と長野県の境、区分けするならば関東・中部地方に位置する浅間山において、仮にセカンドインパクトの影響によって火山活動が活発になった場合、首都圏にもその被害が及ぶ恐れがあった。もともと将来的に噴火する可能性が高かった浅間山については、予測自体は困難であっても火山観測所、地震研究所の存在は必須といえた。「浅間山地震観測研究所」はそういった経緯から新設、あるいは従来の研究所を増設した重要な施設と考えられ、その設備も非常に充実していたことは想像に難くない。

大災厄から15年、浅間山周辺では大規模な地震や噴火の兆候は観測されなかった。ただ、継続的に行なわれていた火口内の観測にて、浅間山地震観測研究所の面々は未知の物体を発見することとなった。この物体が使徒と判明した後、国連直属の特務機関NERVの権限により、研究所は完全閉鎖されることとなる。なお、発見された第8使徒はNERVによって殲滅されたが、その後、完全閉鎖された研究所が活動を再開したかは明らかになっていない──。ちなみに「あさま」とは「火山」を意味する古言とされている。「火山」そのものの名を冠する特別な活火山と、その奥で息を潜めてこれまで発見されなかった使徒──。使徒の襲来が始まった「2015年」に第8使徒が発見されたことは、なんとも不思議な偶然である。



■D型装備
■第8使徒サンダルフォン
■A-17

耐熱耐圧耐核防護の機能を有する局地戦用の特殊装備。規格外であるため、プロトタイプの零号機は装備できない

## セカンドインパクトが与えた日本列島への影響

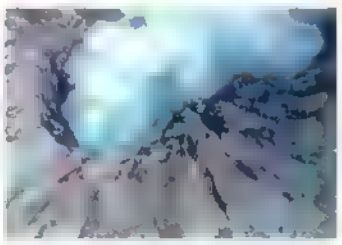
セカンドインパクトが地軸のずれを引き起こすほどの大爆発であったことから、地球表面を覆ういくつかの岩石圏 ──プレートに影響を与えたことは間違いない。プレート同士が衝突し不具合が発生した際は地震が発生し、プレートに亀裂が発生した場合などにはマグマが上昇してくることもある。日本は地震が多い国とされているが、一般的には、列島が複数のプレートの重なり合う箇所にあることが原因のひとつと考えられている。

浅間山地震観測研究所は、セカンドインパクト以降の浅間山において地震観測、研究を進める施設のひとつである。ただし、浅間山周辺には以前にも地震研究所が設けられており、実質的にはその活動範囲の拡大、設備の強化が行なわれたものと推測される。

## セカンドインパクトと日本国内の活火山

**セカンドインパクトの影響は地球表面を覆うプレートにもおよんだ。多くの活火山を有する日本において、その観測態勢が改められたことは想像に難くない。**

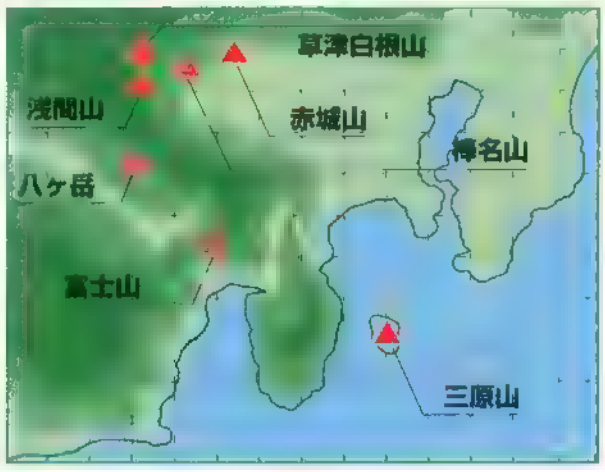
日本は「太平洋」、「ユーラシア」、「北アメリカ」、「フィリピン海」といった複数のプレートが重なり合う地域に位置しているため、古くから地震の多い国である。セカンドインパクト規模の大爆発がこれらのプレートに影響をおよぼせば、過去に噴火した火山、活発な噴気活動のある火山──いわゆる活火山に影響が出るのは必然といえる。関東周辺だけでも複数の活火山が存在するため、その周辺での観測や研究は2000年以前とは比較にならないほど密に進められたと考えられる。



上空から望む浅間山火口付近。セカンドインパクトの影響かは定かではないが噴気活動が活発になっており、火口からは噴煙が立ち昇っている。

主に地震波分析などを行なっていたと考えられる研究所の一区画。プレートや内装の様子から、セカンドインパクト以前から存在する施設のようだ。

●関東周辺の主な活火山




## 活火山調査の強化と予期せぬ生物の発見

関東周辺に位置する活火山の中でも、数回の大規模な噴火が記録されている浅間山。その近辺に位置する浅間山地震観測研究所にはさまざまな設備が整えられており、セカンドインパクト以降、危険度の高い活火山として警戒されていたようだ。しかし、その設備は謎の物体（のちに使徒と判明）の発見という意外な形で活躍する。NERVはこれを使徒と断定すると研究所を完全閉鎖。NERVの管轄下に置かれ、過去6時間以内の事象はすべて部外秘とされた。

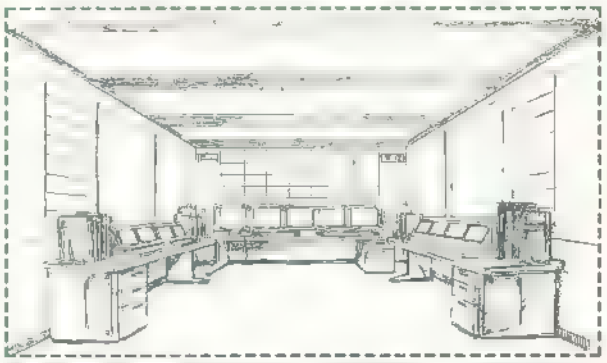
浅間山地震観測研究所が所有していた無人観測機（NERV 葛城ミサト）の要請により、溶岩内にて使徒の存在を確認するために限界深度を超える潜行を強行。深度1300m付近まで潜行を継続したが、使徒をモニターにとらえた直後に圧壊した。

## 浅間山における観測と使徒捕獲作戦

**浅間山地震観測研究所が観測した謎の物体。報告を受けたNERVは再度の観測により、それを使徒と断定。完成体となる前の使徒を捕獲する危険な作戦を決行した。**

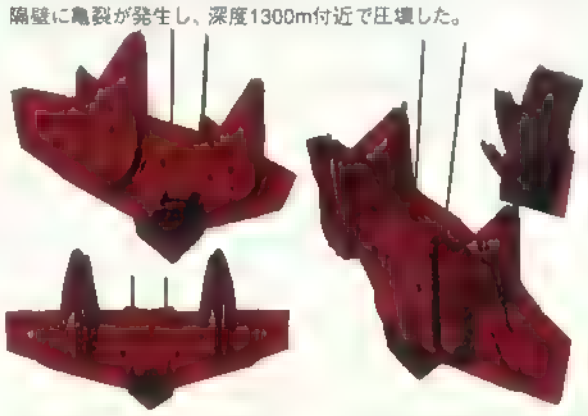
浅間山地震観測研究所が観測した謎の物体の観測データについては、MAGIも明確な回答を見出せなかった。そのため、NERV（葛城ミサトら数名）は研究所に出向し、その権限によって火道観測所、無人観測機を使用することとなる。無人観測機は圧壊したものの、かろうじて謎の物体の姿を捉えた。NERVはこの観測により謎の物体を完成体となる前の使徒と断定し、同研究所を強制的に閉鎖。D型装備のEVA弐号機をマグマ内に潜行させ、使徒の捕獲作戦を展開した。

●浅間山地震観測研究所の施設



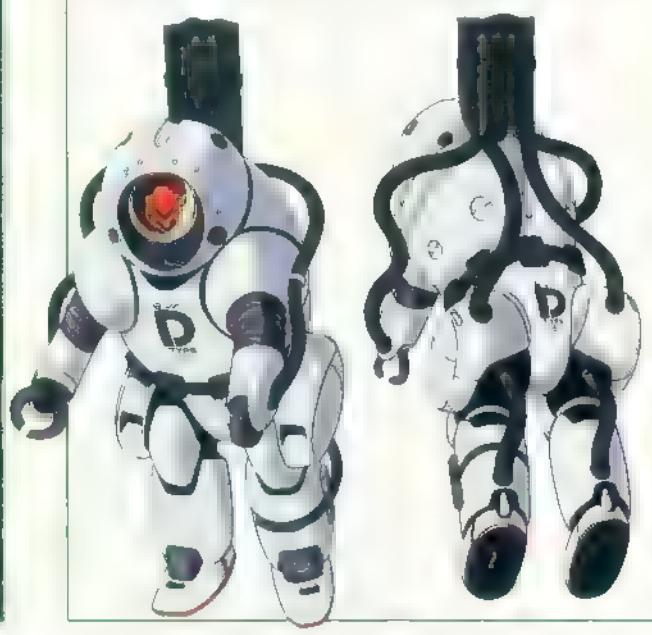
↑浅間山地震観測研究所内にある火道観測所。無人観測機をマグマに潜行させ、さまざまなデータの計測作業が行なわれる。なお、壁面に設置されたモニターにより、マグマ内を観測することもできる。

↓NERVの要請を受け、浅間山火口からマグマの大深度に潜行した無人観測機。限界深度は不明だが、深度1200m付近で耐圧隔壁に亀裂が発生し、深度1300m付近で圧壊した。



●作戦遂行時のEVA支援装備と特殊車両

↓使徒捕獲作戦を遂行したEVA弐号機は、局地戦用D型装備（耐熱耐圧耐核仕様）でマグマの中を潜行した。なお、装備に接続されたパイプからは各所に冷却液が送り込まれ、高い場合は1000℃を超えるともいうマグマの熱を緩和している。



↑EVA初号機と弐号機（写真中央右の2機）と対比すると、その大きさが窺える14式大型架橋自走車。ちなみに潜行前には、同車両のオプション装備からレーザーが打ち込まれ、弐号機の進路を確保した。

## 特記事項

### 使徒捕獲作戦の危険性

謎の物体を使徒と断定し、A-17を要請したミサト。A-17は「生きた状態の使徒を捕獲する作戦」であり、安全を保障できないための措置と思われる「現資産の凍結」をも含んだ指令である。人類補完委員会の席でも委員たちは難色を示し、委員のひとりは「危険すぎる。15年前を忘れたとは言わせんぞ」という言葉を口にしている。これはA-17が失敗した場合、15年前──セカンドインパクトに近い規模（あるいはまったく同様）の大惨事が起きることを懸念した言葉だろう。

解析により使徒と断定された謎の生命体。「完成体になっていない状態」ではあったが、不用意な接触は危険であり、人類補完委員会も捕獲作戦に難色を示した。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

# 新世紀年表
NEON GENESIS CHRONICLE

## 二十二
## 男の戦い
INTROJECTION

[illegible]

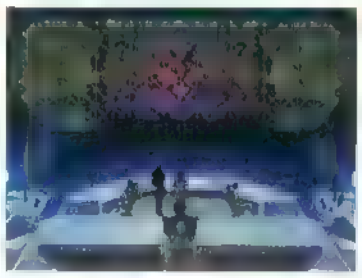


# 男の戦い
Sheet 22
INTROJECTION

A.D.2015 ●NERV本部

## 01 シンジ、ゲンドウを脅迫する

トウジが3号機のパイロットであったことを知ったシンジは、友人を殺させようとしたゲンドウに怒り、初号機に籠城してしまう。司令の決断がなければ、みんな死んでいたかもしれないと訴えるスタッフの声も、彼の耳には届かなかった。「父さんはトウジを殺そうとしたんだ、この僕の手で!!」。激情のままに拳を叩きつけるシンジ。「父さん、そこにいるんだろう!?」。悲痛な叫びが司令室に響く。だがゲンドウはシンジに応えず、L.C.L.濃度をあげることでシンジの意識を失わせた。「子供の駄々に付き合っている暇はない」。


本部に回収された初号機。シンジはエントリープラグから出ることを拒絶した。

必死に説得する日向やマヤたち。シンジはそれを頑なに拒み、遂い脅迫までしてきた。「初号機に残されている、あと185秒。これだけあれば、本部の半分は壊せるよ……」

A.D.2015 ●NERV内病院

## 04 ヒカリ、トウジを見舞う

再びトウジが目を開けると、そこにはヒカリがいた。「鈴原、大丈夫？」「ああ。生きとるみたいやな」。ふと隣のベッドを見るトウジだが、そこにはシンジの姿はなかった。「碇くんは昨日退院したそうよ。3日も寝てたんだから、鈴原は」。ヒカリの説明に肩をすくめたトウジは、弁当を食べられなくてすまないと謝る。そしてさらにすまなそうに頼みごとをしたいと申し出るのだった。「妹に、わしはなんでもあらへんと、言うといてんか」「……うん」。力なくかすれた声でそう呟くトウジに、ヒカリは優しく頷いてみせた。

ヒカリは何も言わなかったが、ベッドの下、トウジの左足がないことに気づいていた。

ここへは委員長として、公務で来ただけだと、心にもないことを言ってしまったヒカリ。「わかっとるわ」とのトウジの返事に、「……わかってないわよ」と俯き、そのまま押し黙ってしまった。

2015年

ミサト、野辺山の戦闘跡地を視察
▶
シンジ、病院に搬送される
▶
シンジ、ゲンドウを脅迫するが失敗
▶
初号機、NERV本部に回収

A.D.2015 ●野辺山

## 02 ミサト、戦闘跡地を視察

第13使徒との戦闘跡地に佇むリツコにミサトが近づいてきた。ふたりとも松代での事故の影響で包帯姿だ。ミサトが問う。「シンジくんは？」「あのあとレーザーカッターで非常ハッチを切断。強制排除されたらしいわ」「参ったわね」。思わずミサトはため息をつくのだった。

怪我をしていても事後処理に忙殺されるミサトとリツコ

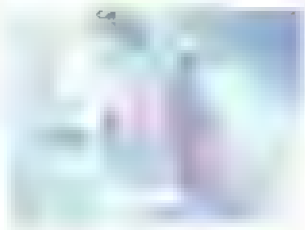
横たわる使徒＝3号機の残骸を前にして、事の重大さを改めて痛感するふたりだった

A.D.2015 ●NERV内病院

## 03 トウジ、レイに気づく

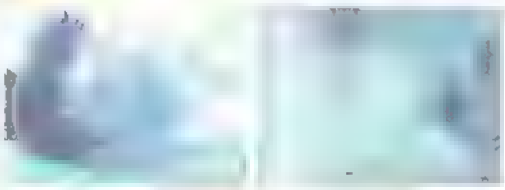
### とある偶然から、トウジはシンジの内面を垣間見た

病院の廊下に佇むアスカとレイは、これからのシンジのことを気にかけていた。今度こそ立ち直れないだろうとアスカは柄にもなく心配する。一方、病室内ではトウジが目覚めていた。うつろな意識の中で、隣のベッドにシンジが寝ていることに気づくトウジ。しかしすぐにトウジは再び眠りに落ち、奇妙な夢を見た。夕焼けに染まった電車で、シンジとレイが口論をしているのだ。これは夢だと気づきながらも、トウジはふたりの姿をぼんやりと眺めるのだった。

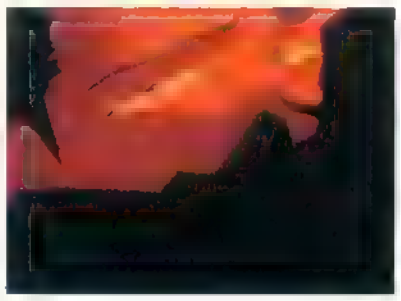


あいかわらずアスカの口調は辛辣だが、シンジへの気遣いが窺われる

シンジはトウジと同じ病室に収容されていた。先に目覚めたトウジは、シンジの姿を不思議そうに眺める



ふと気がついたトウジは、夕闇が迫る電車に乗っており、目の前にはシンジとレイが座っていた



ふたりの口論の理由がわからないトウジは、なぜ口喧嘩しているのかと呟くことしかできなかった

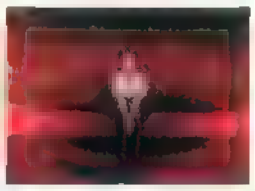
A.D.2015 ●NERV本部

## 05 シンジ、ゲンドウと面会

### 父と子は冷ややかに向かい合い、そして決別した

その頃、NERV司令執務室ではシンジがゲンドウとの面会を許されていた。「命令違反、EVAの私的占有、稚拙な恫喝。これらはすべて犯罪行為だ。なにか言いたいことがあるか？」冷淡な父の言葉にも、今のシンジは動揺しなかった。もうEVAには乗りたくないと告げるシンジに、ならば出て行けと応ずるゲンドウ。そしてシンジが去ったあと、ゲンドウはすぐに指示を出した。サードチルドレンのIDを抹消し、初号機のパイロットにはレイとダミープラグをあてろというのだ。

なんとか回復したシンジは、保安部によって身柄を拘束されていた



静かに詰問するゲンドウ。以前のシンジなら、黙ってうつむいたろうか……。

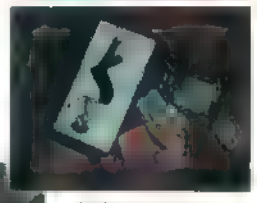
ゲンドウへの強い怒りのまま、自分の番号を示したシンジは、EVAから降りることを宣言した

「お前には失望した。もう会うこともあるまい」シンジの申し出に、ゲンドウは冷たく言い放った

A.D.2015 ●第3新東京市

## 04 ケンスケ、シンジに電話する

第3新東京市からの引越しの準備を終えて、ベッドに横たわるシンジ。そこへ、ケンスケから電話がかかってきた。シンジが街を出て行くことをどこかで聞いたらしい。なぜ今さら逃げるのかと、ケンスケはシンジをなじった。自分はEVAに乗りたくとも乗れやしないのに、と。



事情を知らないケンスケは受話器越しにシンジを責める

電話はNERVによって盗聴されており、機密保持のためと称して途中で切られてしまった

ケンスケ、シンジに電話する
▶
初号機から降りることを宣言する
シンジ、ゲンドウと面会
▶
ヒカリ、トウジを見舞う
▶
保安部によって身柄を拘束される
シンジ、退院
▶
トウジ、シンジに気づく

A.D.2015 ●新箱根湯本駅

## 07 シンジ、ミサトと別れを交わす

### ミサトの言葉にもシンジの決意は揺らかなかった

シンジが第3新東京市を離れる日。見送りに来たミサトに、なぜトウジがパイロットに選ばれたのかをシンジは問い、第4次選抜候補者はシンジの級友たちだったと告げられる。そのことに罪悪感を覚えたのか、自分たちはシンジに未来を託すしかなかったのだとミサトは続けて述べ、本部のパスコードとあなたの部屋はそのままにしておくと告げた。だがシンジはあくまでもきっぱりと答えた。「無駄ですよ。僕はもうEVAには乗りません」。

見送りに現れたのはミサトだけ。アスカもレイも彼を見送るつもりはなかったようだ。

今後、あなたの行動にはかなりの制限がつくことになる。ミサトの忠告にもシンジはまったく動じなかった。

帰りなさいシンジが積極的に話をしていることに気づいたミサトは、改めてシンジの成長に気づいた。

電車を待つシンジは、突然鳴り出したサイレンに顔を上げる。それは使徒接近を告げる警報だった。

A.D.2015 ●第3新東京市

## 08 第14使徒、第3新東京市に接近

突如出現した使徒は駒ケ岳防衛線を突破し、すでに第3新東京市の敷地内に入り込みつつあった。本部施設へ戻ったミサトが迅速に指示を出すもののEVAの地上迎撃は間に合わない。やむなくジオフロントでの迎撃が計画され、EVAの発進準備が進められていった。

どこからともなく現れた使徒に防衛部隊は機敏に対応できずにいた。

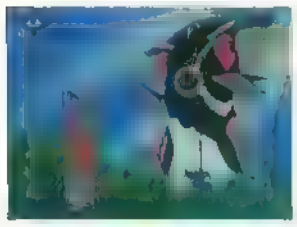
発令所に姿を見せたミサトの指示によりジオフロント内に信号機が配備された。

A.D.2015 ●ジオフロント

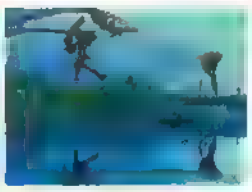
## 12 弐号機、第14使徒に敗北

### 圧倒的な使徒の力を前に手も足も出ない弐号機

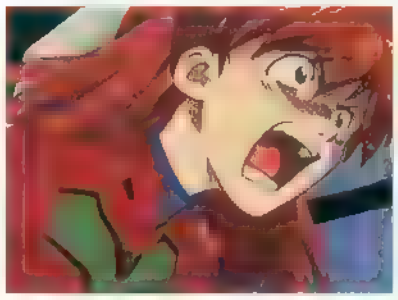
弾幕が途切れた隙を狙って紙のように薄い使徒の腕が変形。アスカがぎょっとする間もなく、長く伸びたその腕が、一気に弐号機の両腕をスッパリと断ち切った。激痛に耐えるアスカ。たが腕を失ってもなお、彼女は戦いをやめようとしなかった。「こんちくしょおおおーっ!!」絶望的な叫びと共に使徒へ突進する弐号機。とっさにミサトが弐号機の神経接続をカットした直後、使徒の腕が再び伸び、弐号機は一瞬で首をはねられてしまったのだった。



機重にも折り畳まれていた使徒の腕が展開。不可解な行動にアスカも思わず呆然としてしまう。



鋭いエッジを有する使徒の腕が弐号機の肩を貫通し、次の瞬間、両腕が切り落とされてしまった。



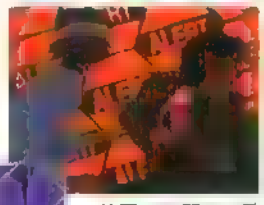
激痛を堪えつつ使徒への突進を敢行するアスカ。だがそれは、とう見ても無謀な行為だった。

使徒の腕が一閃し、切り落とされた弐号機の頭部は、シンジが避難していたシェルターを直撃した。

A.D.2015 ●NERV本部

## 11 初号機、ダミープラグを拒絶

神経接続の遮断は間一髪で間に合い、アスカは一命を取り留める。だが敗北したことにかわりはなく、アスカは屈辱に顔を歪めるのだった。一方、初号機の起動準備も困難を極めていた。レイと同様にダミープラグも拒絶され、初号機は沈黙を守ったままだった。



前回の戦闘では受け入れたダミープラグを、なぜか今回は拒絶されてしまう。

その状況に、ゲントウには思うところがあったようだ。

2015年

- 弐号機、使徒と交戦
- 使徒、ジオフロント内に潜入
- レイ、初号機に拒絶される
- 初号機の発進準備が進む
- 弐号機がジオフロント内に配備
- 第14使徒、第3新東京市に接近
- シンジ、ミサトと別れを交わす

A.D.2015 ●NERV本部

## 09 レイ、初号機に拒絶される

シンジの代わりに初号機に搭乗するレイ。ところが神経接続が進むなか、ふいにレイは吐き気に襲われてしまう。初号機がレイとの接続を拒絶し、パルスが逆流してしまったのだ。(ダメなのね……もう)。必死に口元を押さえて心の中で呟くレイ。その様子を目にした冬月は戸惑いを隠せずにいたが、ゲンドウは落ち着き払った態度で初号機の起動中止を命じ、レイには修復中の零号機での発進を命じたのだった。

LCLが電荷され、A10神経が接続されて、いつもとおりの起動手順。問題はなく、初号機はレイを受け入れると思われたが……。

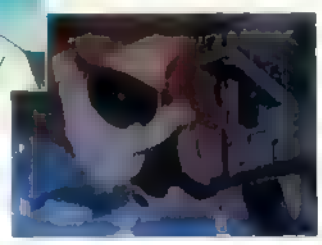
突然のパルス逆流に不快感を露わにするレイ。なぜそれよりも、初号機が彼女を拒絶する理由をレイは薄々感じているようだった。

A.D.2015 ●ジオフロント

## 10 第14使徒、ジオフロント内に侵入

十字架に似た火柱が次々に都市を焼いていく。使徒の侵攻を遠くから眺めるシンジは、必死に自分に言い聞かせていた。「僕はもう乗らないって決めたんだ……」。一方、ついに地上とジオフロントを隔てる最後の特殊装甲板が突破されてしまった。「頼んだわよ……アスカ」。祈るようなミサトの目の前でジオフロントの天井に大爆発が起こる。その真下では弐号機が大量の武器を用意して使徒を待ち伏せていた。

EVAには乗らないと誓ったシンジだが、使徒の侵攻を前にどうすることもできない自分を歯がゆく感じ、その場から動くことができなかった。

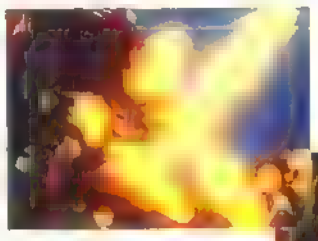


崩れ落ちる天井ビルの間から姿を覗かせる使徒。人類最後の砦であるジオフロントに、ついに使徒が侵入してしまった。

●ジオフロント

## 11 弐号機、第14使徒と交戦

天井に開いた穴を抜けて姿を現した使徒に対してバレットガンの乱射を浴びせる弐号機。だが使徒はダメージを受けた様子も見せず、悠然と降下を続けていた。「A.T.フィールドは中和しているはずなのに!」。予想外の展開に焦りを覚えるアスカ。「なんでやられないのよぉ!!」。弾の尽きた武器を次々に新しいものへと交換しつつ、アスカは悲痛な叫びをあげる。「もう二度と負けらんないのよ、この私は!」



これまでの使徒ならATフィールド中和後の至近距離での連射には耐えられなかったはずだ。だが今回の相手は明らかに違っていた。

一向、倒れる気配のない使徒に不安げな表情を浮かべるアスカ。だが自らのプライドを維持するためにも、戦いを続行するのだった。

A.D.2015 ●ジオフロント

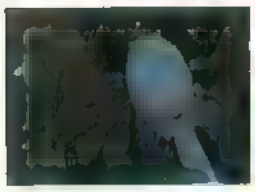
## 14 シンジ、加持と遭遇

### 加持との出会いがシンジに決断を促す

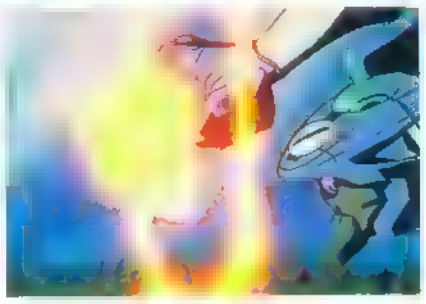
やむなくシェルターを出て戦闘を眺めていたシンジに声をかけてくる者がいた。加持である。こんな所でなにをしているのかと問う加持に、もうEVAには乗らないと答えるシンジ。だがその声には迷いがあった。使徒がアダムと接触すれば、人類は滅亡する。それを止められるのはEVAだけだ。

そう加持が言った時、n²爆弾を抱いた零号機が現れた。使徒が展開したA.T.フィールドに力任せに爆弾をねじ込もうとするレイ。激しい爆発が起き、爆煙が晴れたあとには倒れ伏す零号機の姿があった。あまりのことに、シンジは愕然と目を見張る。

惨めな姿をさらす弐号機を前にしてシンジは加持と出会うこととなった。



死ぬ時にはここにいたい……スイカに水をやりながら呟いた加持の静かな言葉に、シンジは現状の厳しさを再認識させられる思いがした。



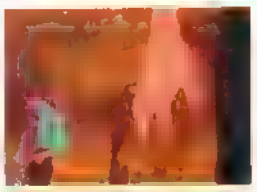
ATフィールドを突破して直接、n²爆弾をぶつけようという零号機。突破には成功したが……。

コアを守るシャッターに阻まれて使徒殲滅に失敗。逆に零号機が大破させられる結果に終わった。

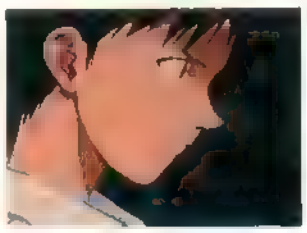
●ジオフロント

## 15 シンジ、初号機への搭乗を決意する

加持は言った。今、自分はスイカ畑に水を撒くことしかできない。だがシンジにはシンジにしかできない。シンジならできることがあるはずだと。「誰もきみに強要はしない。自分で考え、自分で決めろ。自分が今、何をすべきなのか。ま、後悔のないようにな」。加持の言葉に自問自答を繰り返すシンジ。そしてついに毅然と顔を上げたのだった。



誰に聞かせるでもなく言葉を紡いでいく加持。だが彼の独白はシンジの胸の奥深くに届いていた。



しばらくの沈黙ののち、顔を上げたシンジ。その瞳には迷いはなく、ある決意が滲んでいた。

シンジ、初号機への搭乗を決意する ▶

零号機、使徒に敗北 ▶

シンジ、加持と遭遇 ▶

初号機、ダミープラグを拒絶 ▶

アスカは一命を取りとめる

弐号機、使徒に敗北 ▶

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会 

Illustration by Takuya Io

浅間山にて使徒捕獲作戦を展開するNERV。同作戦においては、目標が火口内の深度1300m付近にいるものと推測されていたため、支援装備である局地戦用D型装備が初めて使用されることとなった。

# EVA支援装備

EVA SUPPORT EQUIPMENT

特定の目的に応じた道具を揃えて身につけること、また、その道具自体のことを「装備」と呼ぶ。

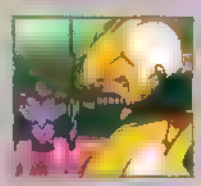
西暦2015年。使徒襲来に直面した世界において、使徒に対抗する唯一の戦力とされた汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン――。この人型の超兵器を有する国連直属の特務機関NERVは、必然的に相応の威力を有する銃火器類と、強固な敵を切断し得る格闘武器類の開発を推進した。その結果としてEVAは、使徒襲来の初期段階からパレットライフル、プログレッシブ・ナイフといった優れた武器を手にし、使徒を迎撃することが可能となった。しかし、それらの武器はあくまで対使徒戦における「攻撃手段の充実」を図るための装備である。武器の開発のみを推進しても、いずれ使徒との戦闘において危険極まりない状況に追い込まれるであろうことは想像に難くなく、当然、NERVもそういった状況を想定していた。その証左として彼らは、ポジトロン20Xライフル、ソニックグレイブといった新たな武器の開発を進めると同時に、EVAが置かれるであろう様々な状況下で大いに有用性を発揮する「支援装備」の開発にも着手したのである。

局地戦用の支援装備である「D型装備」、使徒の捕獲を想定して開発された「キャッチャー」、電力供給がままならない場合に装備する「非常用電池」、武器を携行するための「ハードケース」――、それぞれ有用性を発揮する状況は限定され、場合によっては使用されないケースも考えられた。しかし、それらすべてがその有用性をいかんなく発揮する場面で使用され、NERVの支援装備開発の方向性が正しかったことを証明した。さらにNERVは、特殊な作戦を遂行するためであれば、外部が開発したものを改修、急造してEVA用の装備を生み出すことも厭わなかった。第5使徒ラミエル殲滅の際にも、NERVは武器「ポジトロンスナイパーライフル」と、支援装備「耐熱光波防御兵器」を急造し、これが使徒殲滅の決定打となっている。ちなみに、徴発などの要請を受けた外部組織は、国連の特務機関で特殊な権限を持つNERVに従わざるを得なかったという。この一例だけを見るとNERVへの権力集中を危険視する向きも理解できよう。ただ、NERVが協力を要請する事象は頑ななまでに「使徒殲滅」に特化しており、そこに他意は見られないことが分かるだろう。

ちなみに、EVAが使徒との戦闘で実際に使用したオプション装備は、局地戦用のD型装備（耐熱耐圧耐核仕様）のみである。一部関係者のあいだでは、新たなオプション装備も開発中であったとも言われているが、その情報の出どころは確かでなく、その真相を確かめる術はない。

RELATED MATTERS

- EVA
- NERV
- SSTO
- 浅間山地震観測研究所



特務機関NERVが所有する汎用人型決戦兵器。NERV本部は零号機と初号機、のちに弐号機を含む3機のEVAを所有している。

## 特殊状況下で真価を発揮する局地戦用の支援装備

### 装備の特徴

特殊な状況下における活動、戦闘を可能にするオプション装備――それが局地戦用の支援装備である。使徒捕獲作戦の際に用いられた局地戦用D型装備とキャッチャーは、まさにこの作戦のために用意されていたかのような装備であった。

なお、EVAのために用意されたオプション装備のうち、使徒との戦闘において使用されたものは、このD型装備のみである。もともとEVA自体が汎用性に優れているため、オプション装備よりも武器等の開発に比重が置かれていたものとも考えられるが、その真相は定かではない。ちなみに、固定武装のみで特にオプション装備を用いていないEVAは、B型装備と呼称されている。

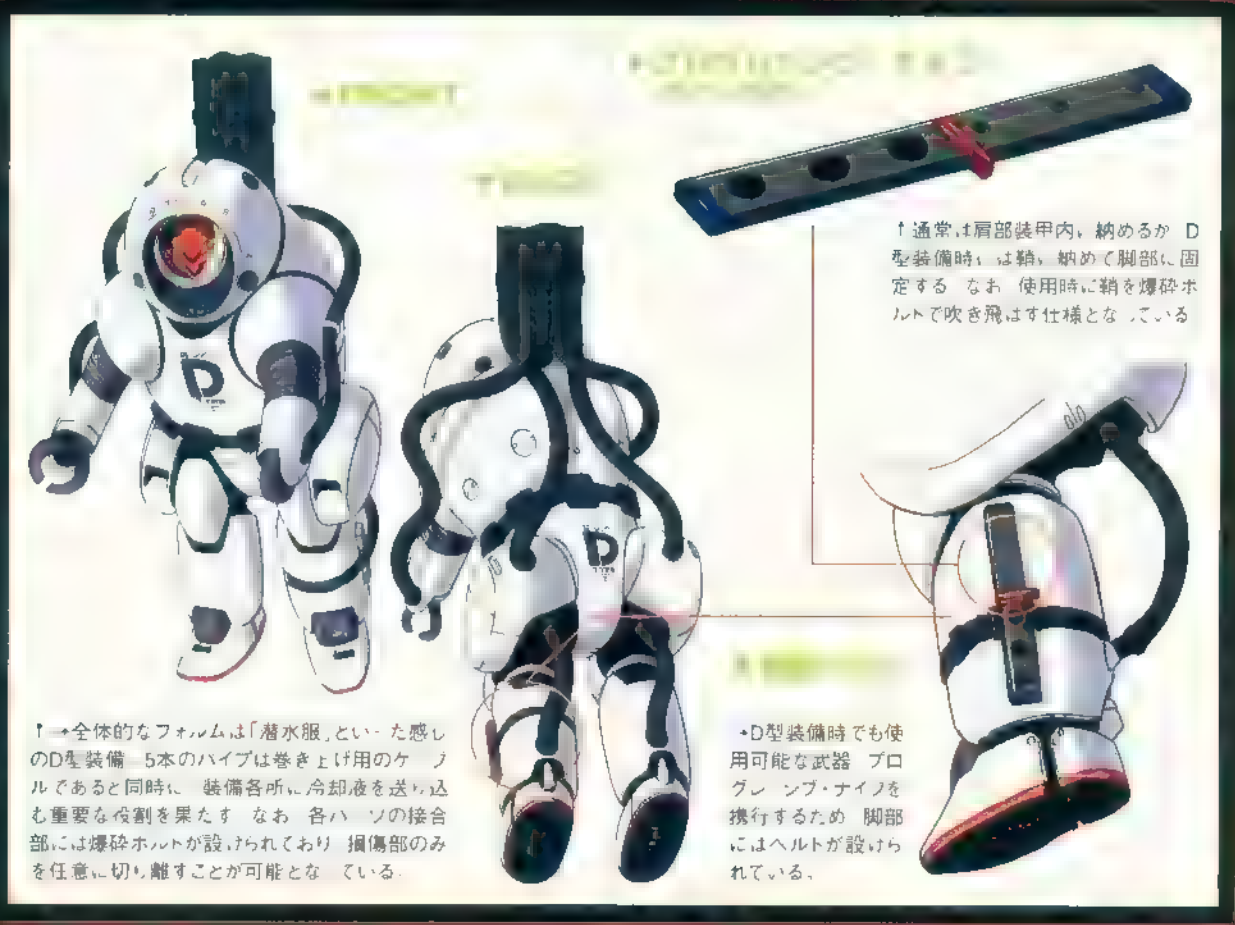
局地戦用とはいうものの、装備した際は可動域が大幅に制限されてしまうD型装備。あくまで特殊な任務を遂行するための「支援装備」と考えるのが妥当だろう。

NERVは「使徒の捕獲」という限りなく可能性の低い事態をも想定していた。使徒捕獲作戦に、EVA弐号機がキャッチャーを携行していたことがその証左である。

### ■局地戦用EVA D型装備

EVAが局地戦に赴く際に用いるD型装備。「D」は「Diving」の略と推測される。耐熱耐圧耐核防護服であり、このオプション装備を用いることで水中、溶岩内といった特殊な環境下での活動が可能となる。大腿部には熱交換ジェネレーターを持ち、さらに胴体、両腕、両脚の各パーツに冷却液を循環させることにより、内部温度の上昇を抑える仕組みになっている。ただし、その外見からも分かる通り機動性は低く、実際には戦闘向けの装備ではなく、作業用の装備と考えられる。

EVAの支援装備が使用されると同時に、操縦者もまた、それに合わせて特殊な装備を用いることがある。D型装備の弐号機に搭乗し、浅間山火口内を潜行したアスカは、耐熱仕様のプラグスーツを装備して作戦に臨んだ。

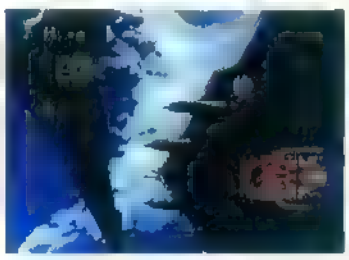



## 特記事項

### 空輸手段としての支援装備

ジェットアローン暴走時、葛城ミサトはEVA専用長距離輸送機でEVA初号機を輸送するよう指示を出した際に「F型装備」という呼称を使っている 「F」は「Flight」の略と思われるが 同装備は輸送機による空輸と降下後の戦闘を想定したものであり 空中戦用のオプション装備を意味するものではない

ちなみに外見上は 「B型装備」との差異がない そのためEVAとEVA専用長距離輸送機をまとめて「F型装備」と呼ぶものと考える向きもあるが、実際には輸送機とのドッキング機構 落下時の衝撃を和らげるための耐ショック機構が組み込まれたものと考えられる。

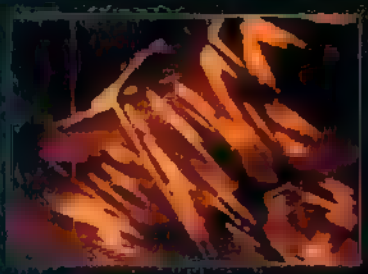


EVAの輸送に特化したEVA専用長距離輸送機 短時間で目的地へとEVAを輸送し、神出鬼没な使徒に対応することも可能となった

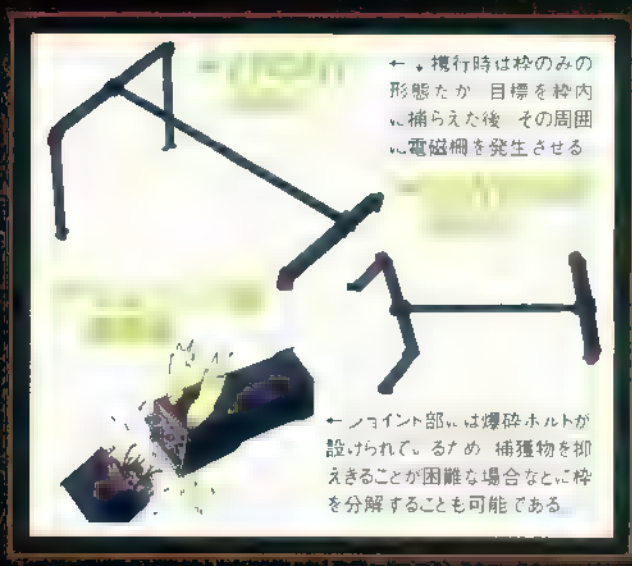
EVA専用長距離輸送機は作戦エリアに接近 着陸はせずに、上空からEVAを投下するため 速やかに作戦行動に移ることが可能となる

### ■キャッチャー

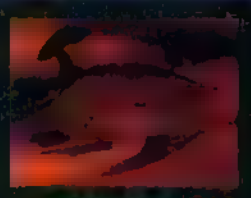
浅間山火口内で発見された第8使徒の捕獲に用いられた特殊装備。両端を展開させた後、そこから発生する電磁柵で対象を囲い込み、捕獲する。なお、電磁波の発生はエネルギーの放射現象の一種であり、空間そのものがエネルギーを持って振動する現象である。さらに電磁波は基本的に空間を直進するため、結果的にキャッチャーの枠組み間をつなぐ電磁波による面が形成され、対象の囲い込みが可能となる。



強力な電磁柵を展開し、目標を捕獲するキャッチャー。弐号機はこの支援装備によって一度は使徒を捕獲した。しかし、捕獲してまもなく、使徒が異常な速度で成長。キャッチャーで抑え切ることは困難となった。




### 使用例と効果



**攻撃目標**
第8使徒 サンダルフォン

浅間山地震観測研究所が、火口内にて謎の物体の存在を観測。それが羽化前の使徒であることを確認したNERVは、その捕獲作戦を展開。D型装備とキャッチャーを用いたEVA弐号機が、火口の奥へと潜行した。なお、使徒発見時の深度は1800mほど[illegible]限界深度を超えた大深度潜行であったにもかかわらず、弐号機自体には不具合などは生じなかった。ただ、作戦実行中に使徒が羽化を始めたため、作戦は中断され、殲滅作戦へと移行した。

第8使徒捕獲作戦において、1800m程度の大深度潜行を可能にしたD型装備。ただし、圧力上昇と高熱により破損も見られた。

強力な電磁柵を発生させたキャッチャー。ただし、使徒の力は思いのほか強力であり、[illegible]即座にキャッチ[illegible]崩壊が指示された。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

# EVA支援装備 Sheet 07

EVA SUPPORT EQUIPMENT

## ■EVA専用耐熱光波防御兵器(急造仕様)

第5使徒ラミエルが放つ加粒子砲を防ぐために急造された装備。単段式宇宙往還機であるSSTO(Single Stage To Orbit)の船底部を流用したもので、正式な装備ではない。第5使徒の放つ加粒子砲は、直撃を受けた初号機の胸部を瞬時に大破させるほど強力なものだった。EVA支援装備のなかにこの加粒子砲を防ぎ得るものは存在しなかったため、NERVは急遽、盾の代替品となるものを模索。超電磁コーティングが施された、SSTOの船底部を盾代わりにする。ちなみに、赤木リツコも「あの砲撃にも17秒は持つわ」と、その耐久力を保証していた。

NERV最高司令官の碇ゲンドウも国連の会議に出席する折、長距離の移動手段としてSSTOを使用していた。大気圏を通るSSTOの底部には、特殊な素材が使用されており、さらに超電磁コーティングが施されている。

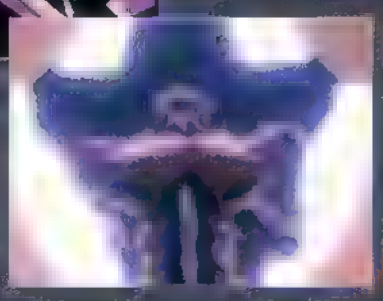
←↑SSTO基底部を改造した巨大な盾。急造ではあるが覗き穴と取っ手もつけられ　応は盾の体を成している

### 使用例と効果

**攻撃目標**
第5使徒　ラミエル

A.T.フィールドを展開すると共に、一定範囲に侵入する対象を加粒子砲で狙撃する第5使徒。NERVは本部直上を確保した使徒に対し、二子山からの直接射撃作戦を敢行する。耐熱光波防御兵器は使徒の反撃から初号機を守るために使用され、半ば融解[illegible]。襲撃[illegible]装置を[illegible]。なお、初号機が使用したポジトロンスナイパーライフルも、戦略自衛隊つくば技術研究本部(戦自研)から徴発した「自走陽電子砲」を改修したものだった。

長々距離からの射撃作戦を敢行したNERV。作戦実行には2機のEVAが用いられたが、盾による防御役は零号機が担当することとなった。



耐熱光波防御兵器を用い、第5使徒が放った加粒子砲を防ぐEVA零号機。その身を挺した防御により、EVA初号機は射撃の機会を得た。

### 支援装備の特徴

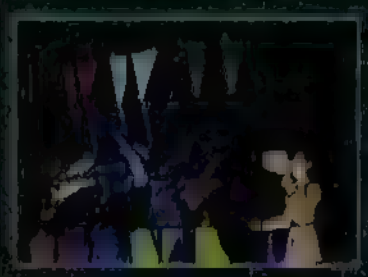
**開発と作戦を通じて改修、急造された支援装備**

EVAに必要と思われる武器や支援装備の大半はすでにNERVが開発済みである。ただし、なかには必要に応じて改修や急造されたものも存在する。例えば第5使徒との戦いにおいては、A.T.フィールドを貫通し得る大出力の銃火器が必要となった。この際、NERVは外部(戦自研)から徴発した「自走陽電子砲」を改修し、作戦の遂行を可能とした。また、この作戦では使徒の加粒子砲による反撃が予想された。それを防ぐ手段も講じる必要があったが、NERVはこれもSSTO(Single Stage To Orbit)の船底部を流用した「耐熱光波防御兵器」を急造することで解決している。この事例は使徒殲滅作戦の鍵を握った武器、支援装備が双方共、改修、急造装備であったまれなケースだが、このような臨機応変さは、NERVという組織が持つ長所といえるだろう。

耐熱光波防御兵器について「SSTOのおさがり」と珍しく軽口をたたいたリツコ。現行のSSTOからわざわざ入手したものではなく、廃棄処分の機体からあらかじめ入手していたものとも考えられる。

## ■EVA専用非常用電池／ハードケース

肩部装甲のジョイント部を利用する非常用電池とハードケース。用途はまったくことなるものの、その形状は非常に似通っている。非常用電池は文字通り電源が確保できない状態でのEVA運用を想定した装備であり、ハードケースはEVA専用の武器(主にパレットライフル)を収納して携行するための装備である。どちらの装備も、限定された状況下でのEVAの活動を円滑にするための装備といえる。ただ、その使用機会は思いのほか少なく、停電中にNERV本部が使徒の襲撃を受けた際、EVA各機が装備したのみであった。



何者かの手によりジオフロント内が停電状態に陥っていたため、肩部に非常用電池を装備して、使徒迎撃へと向かうEVA。ただしあくまでも非常用であるため、その容量はさほど多くなかったようだ。

←↑よく似た形状を持つふたつの装備。なおハードケースはパレットライフルが入る程度の大きさになっている

### 使用例と効果

**攻撃目標**
第9使徒　マトリエル

事故(実際には何者かの破壊工作)により停電中のNERV本部に、第9使徒マトリエルが襲来。当然ながら停電中はEVAへの電力供給も行なえないため、EVA各機は非常用電池を装備して第9使徒のもとに向かうこととなった。第9使徒の強力な[illegible]攻撃を[illegible]EVA3機による連携で使徒を撃破した。ちなみに、使徒への攻撃に使用されたパレットライフルは、作戦中、ハードケースを装備していた零号機が携行していた。

かなりの大きさとなっている非常用電池。通常の作戦で使用されない理由は、その大きさゆえに行動に支障をきたすためと考えられる。

対第9使徒戦において零号機のみは非常用電池とハードケースを装備。ケースにパレットライフルを納めて携行していた。

### 支援装備の特徴

**開発パーツともいうべき特殊な支援装備**

これまでに紹介した支援装備のほかにも、肩部装甲に取り付ける「肩部パーツ」ともいうべき支援装備が存在する。「非常用電池」と「ハードケース」がその支援装備にあたるが、このふたつはこれまでに紹介してきた「特殊な状況下」でのみ有用性を増す装備ではなく、使用しようと思えば、通常の作戦においてもそれなりに有用性のあるものだ。ただ、非常用電池はそのサイズと重量がネックとなるため、重用はされていない。一方のハードケースについても、屋内などの特別な状況でもない限り武器を持たずに使徒に接近するケースは考えられず、やはり使用頻度は少ない。

とはいえ、双方共、NERV本部を舞台とした対第9使徒戦では帰趨を決する支援装備となり、その開発が間違いではなかったことを証明した。

ハードケースを使用する利点のひとつとしては、移動中の両手が自由になることが挙げられる。NERV内部を移動する際には梯子を登ることもあったため、武器を収納できるハードケースは必須の装備だったといえよう。

# EVA支援装備

EVA SUPPORT EQUIPMENT

Illustration by Takuya Io

## 使徒の能力の脅威とそれに対抗する装備

### 対使徒戦の問題点

使徒はA.T.フィールドと呼ばれる防壁を周囲に展開するため、通常兵器ではダメージを与えることが極めて困難である。そのため、同じくA.T.フィールドを展開し、相手のA.T.フィールドを侵食、中和できるEVAのみが、使徒に対抗できる唯一の戦力とされてきた。ただ厄介なことに、使徒は個体ごとに特徴が大きく異なるうえに、学習して進化する生命体であった。無論NERVも様々なEVA用の装備と作戦で対応したが、それが決定打にならず、初号機の暴走という不確定要素によって事なきを得た事例も少なくない。様々な支援装備や武器などが用意されていたものの、結果的にそれらは十分な準備だったとは言いきれないものであった。

複数の使徒が同時に侵攻してくることはなかったため、EVAは2機または3機で使徒を迎撃。つねに数的優位を保って戦えたことは、NERVにとって幸いなことだ。

ポジトロンスナイパーライフルなどの射程外から精神攻撃を仕掛けてきた第15使徒。これに対抗できる装備はなく、碇ゲンドウはロンギヌスの槍の使用を指示した。

## 特記事項

### 各使徒同士の繋がり

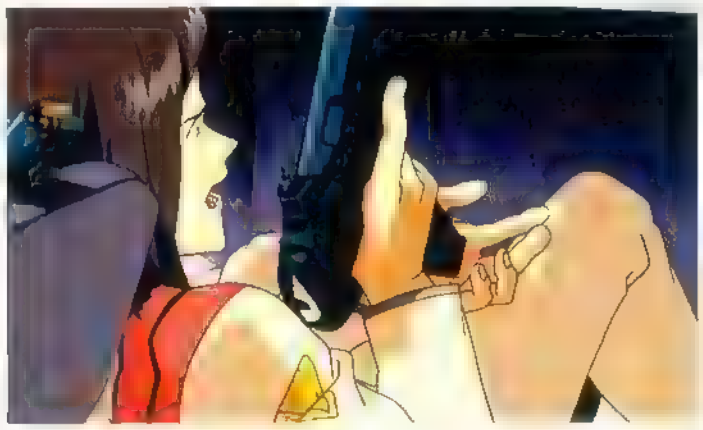
使徒は個体ごとに特徴が大きく異なるうえに、学習して進化する生命体であったことは先に述べた通りである。そのうえで、さらに一連の使徒の特徴を俯瞰すると、彼らは予備知識でも得てきたかのように、前の個体とは異なる方向性を持っていることが分かる。無論個体差はあって然るべきだが、その変化は、まるで各使徒同士で情報を共有しているかのようでもある。

実際に各使徒同士の繋がり、情報の共有があったかは解明されていない。だが、仮にそういった繋がりがあったと仮定した場合、EVA用の装備に有効といえるものがなかったり、NERVの対応が後手に回りがちであったことも致し方ないことだったといえるだろう。

同型の2体に分裂する能力を持っていた第7使徒。その迎撃にあたったEVA初号機と弐号機は、その初戦では敗北を味わわされた。

個体ごとに特徴が大きく異なる使徒。なかにはEVAとの戦闘の予備知識を得てきたかのように、以前の使徒の欠点を補っているものもいた。

©GAINAX・カラー・Project Eva ©GAINAX・カラー・EVANGELION



銃火器

# 機関銃

## 対人要撃用
## に用意された NERVの火器

NERVにおいて グロック17のほかサブマシンガンも配備されており、これで戦略自衛隊に抵抗していた

対人戦闘の本格的な装備と練度を持つ戦略自衛隊。そのプロを相手に、銃があるとはいえ素人が敵うべくもなかった

弾丸を継続して発射するという大火力の機関銃。南北戦争にて戦果を上げ、第2次世界大戦において軽機関銃、短機関銃、自動小銃などに派生していく。

中でも短機関銃、いわゆるサブマシンガンは、戦時下においては射程、威力共に力不足とされたが、その適度な射程と威力、携行性の高さから市街地での戦闘において有効性を見出され、対テロ特殊部隊などの装備として用いられている。なお、軍用銃の主流としては、自動小銃のひとつである突撃銃、いわゆるアサルトライフルが使われている。

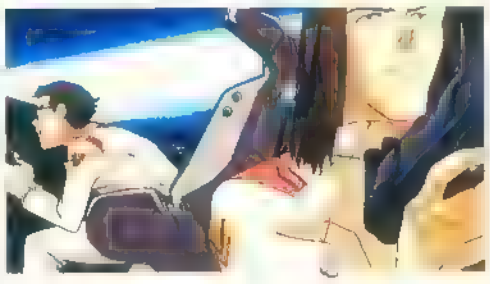
軍事組織としての一面が強いNERVではあるが、あくまで使徒との戦闘が主眼である。そのためスタッフは銃の扱いが義務付けられているものの、本格的な対人戦闘のためのものではない。ただし、対人要撃の装備として拳銃のほかサブマシンガンも常備されており、定期的な訓練も行なわれているようだ。

# Machine Gun

## NERVのサブマシンガン

NERVが制式採用しているサブマシンガン。基本的に警備部のスタッフが使用している。そのほか、非常時のための対人要撃用として各部署や施設に配備されているものと考えられる。

NERVの警備スタッフはサブマシンガンを装備。銃を使う間もなく忍び寄った戦略自衛隊によって刺殺される。



青葉シゲルはクロックではなくサブマシンガンを使用。発令所に侵入した戦略自衛隊に抵抗を試みていた。

↑ベルト部分

←ストック

←人物対比

➡マガジン

NERVが制式採用しているサブマシンガンは、イタリア「グルッポソシミ社」製の輸出用サブマシンガン、ソシミ・タイプB12などにも似た外見を持つが、そのモデルは不明。マガジンはグリップの下に入るUZIタイプであり、ストック部分は伸縮可能となっている

発令所のコンソール下には普段よりサブマシンガンが常備されており、有事の際にはすぐに使用可能となっている。

## 特記事項

### 戦略自衛隊の装備

南沙諸島の軍事衝突をきっかけとして設立された戦略自衛隊。その経緯のためか、対人戦闘に関する練度は高いようだ。個人用の端末やディスプレーなど最新装備が充実しており、装備の次世代化も進んでいると考えられる。なお、NERV本部の直轄占拠の際は、アサルトライフルを基本装備として導入している。

対人制圧用として軍用のバックパック式火炎放射器を持つ。主に室内に立てこもったスタッフを攻撃する際に使われていた。

主武装であるアサルトライフルのほかバックアップガンとして自動拳銃を持つ。そのほか携行式のロケット砲も導入していた。

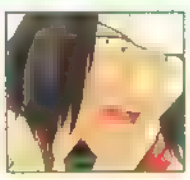
↑アサルトライフル

戦略自衛隊の標準装備であるアサルトライフルは、ドイツの銃器メーカー「ヘッケラー&コッホ」のG11と酷似しており、その改良型もしくはその流れを汲むものと考えられる。なお、G11は薬莢を使用しないケースレス弾薬を用いており、その口径は4.73mmとかなり小さい。そのため装弾数は50と多めながら、専用の徹甲弾を用いるため汎用性は低く弾も銃本体も高価。また、ロックオフという暴発が起きやすい欠点が指摘されている。

↓パーソナル無線機

個人用端末。インカムは左側で、チューナーのある機材はトランシーバーのように使う。

■青葉シゲル
■NERV
■戦略自衛隊
■発令所



NERV本部中央作戦室付オペレーター。戦略自衛隊襲来の際も状況を冷静に分析、人を撃てないという伊吹マヤを叱咤した

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

## パルス

ごく短時間に急激な変化を見せる信号の総称。神経が発する信号といった意味で用いられる。このパルスが逆流し、EVA側から操縦者へと信号が送られる状態になると精神汚染を引き起こす恐れがある。初めて行なわれた零号機起動実験の際は、パルス逆流後に同機が制御不能に陥った。なお、パルス波は波形の山がひとつのものを指し、山と谷が交互にできる波形の連続波と対比される。

EVA初号機の意志によって操縦者が拒絶され、その結果パルスが逆流して神経接続が拒否される例も報告されている。

## バルタザール

「SUPER COMPUTER MAGI BALTHASAR・2」。3基で構成されるスーパーコンピュータMAGIシステムのサブシステムのひとつ。第7世代の有機コンピュータに個人の人格を移植して思考させる人格移植OSであり、MAGIシステムの開発者、赤木ナオコ博士の“母親”としてのパターンがインプットされているという。

## バルディエル

粘菌状の形態を持ち、EVA3号機に寄生した第13使徒。3号機が米国のNERV第1支部より松代のNERV第2実験場に輸送される途中、積乱雲の中で寄生したものと思われる。起動実験が行なわれて間もなく活動を開始した同使徒は、フォースチルドレンが搭乗したままの3号機を乗っ取り、松代第2実験場より徒歩で第3新東京市へと侵攻。途中の野辺山付近で待機していたEVA3機と交戦する。まず先制攻撃によりEVA弐号機を沈黙させ、次いでEVA零号機の左腕を侵食して侵入を試みるが、同機の左腕が強制切断されたために失敗。最後にEVA初号機への攻撃に移るが、ダミーシステムを起動させた同機に圧倒され3号機ごと殲滅された。なお、「バルディエル」とはユダヤ、キリスト教神秘主義に見られる霰と雹を司る天使の名であり、雷光の天使とも呼ばれる。また、エノク書における神の子らの意を持つというベネ・ハ＝エロヒムのひとりで、首領であるシェムハザの下、地上において受肉したという。

3号機の起動実験中、絶対境界線を突破して起動した瞬間に活動を開始した。

## はるな

第7使徒イスラフェルを発見した巡洋艦。警戒中に紀伊半島沖にて巨大潜航物体を発見し、NERV本部へとそのデータを送る。これにより潜航物体が使徒だと判明し、NERV側から迅速に打って出ることを可能とした。なお、海上自衛隊が保有するヘリコプター搭載の護衛艦に「はるな型護衛艦」が存在する。

## パレットライフル

EVAの主要火器であるフルオートの自動小銃。別名パレットガンとも呼称される。ストックにあたる部分が8の字型加速ターレットとしての機能を持つ。また、弾倉がグリップの後ろに配置されたブルパップ方式で銃身が長いため命中精度も高い。そのほか耐久性も十二分にあり、落下により地面にめり込むほどの衝撃にさらされても問題なく使用できている。銃弾には貫通力に優れた劣化ウラン弾を使用し、これを電磁レールより高速射出することにより対象を攻撃。しかしながら、使徒に対して決定打を与えるほどの威力はなく、けん制などに使われている。なお、兵装ビルには予備ライフルが収納されている。

パレットライフルが使徒に対する決定打となったのは、第9使徒マトリエル戦においてのみであった。

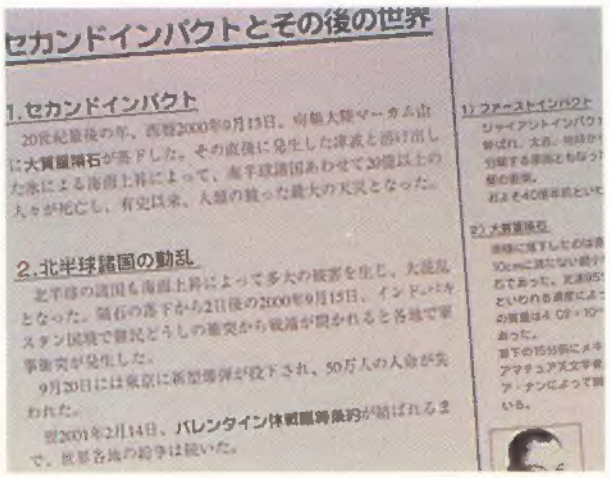
## パレットライフルのハードケース

パレットライフルを収納するための専用ケース。EVAの肩部パーツにマウントして携帯する。第9使徒マトリエル戦において、EVA零号機が右肩に装備して出撃した。

マトリエルの溶解液によって溶かされるものの、パレットライフル本体に被害は及ばず、見事にケースとしての役目を果たした。

## バレンタイン休戦臨時条約

2001年2月14日に締結された紛争休戦条約。セカンドインパクトから2日後の2000年9月15日に、インド-パキスタン国境にて難民同士の衝突が起こる。それに端を発して各地で軍事衝突が勃発し、同条約が結ばれるまで世界各地の紛争が続いたという。条約内容については明らかにされていないが、各国軍隊の国連軍への編入の合意などが含まれているものと推測される。この条約の締結により、セカンドインパクト後に各地で発生した軍事衝突は収束を見ることとなったようである。



セカンドインパクトとその後の世界

1.セカンドインパクト

2.北半球諸国の動乱

赤木リツコが碇シンジにセカンドインパクトの真相を語る際に見られた、歴史の教科書にこの条約についての記述が見られる。

## 反動形成

精神分析学の用語で、防衛機制（自我を守る作用）のひとつ。抑圧した自分の本当の欲求とは正反対の態度や行動をとってしまうこと。第15使徒アラエルによって暴かれた惣流・アスカ・ラングレーの精神世界の中で浮かんだ文字。

本心では母親に甘え、ぬいぐるみを抱きしめて泣き叫びたい子供のはずなのに、それを抑え込み「誰にも頼らない。独りで生きていけるの」と大人であるという態度を見せるアスカ。

## ハンドガン

EVAの装備のひとつ。超大型の自動拳銃で、デザートイーグルの.50AE版に酷似した外見を持つ。第12使徒レリエル戦にてEVA初号機が装備して出撃した。なお、1／1バルーン・ダミーが持っていたハンドガンは、弾丸の初速が予定値に足りずA.T.フィールドを貫けないため、試作段階で破棄されたものである。

レリエルに向けて発砲するも、その本体はディラックの海という虚数空間を形成しているため何ら効果はなく、銃の威力が実証されることはなかった。

## ハンドバズーカ

EVAの装備のひとつ。対使徒戦で使用するロケット弾発射機。第13使徒バルディエル戦で用いられた大型砲身のものではなく、小型のロケット弾を連続で発射できるハンディタイプの武器。装弾数も多いようだ。

第14使徒ゼルエルに対して二挺同時に用いられたが、直撃しても全くダメージを与えられなかった。

## 汎用人型決戦兵器

人造人間エヴァンゲリオンの別称。初めてEVAを見た碇シンジに対し、赤木リツコがこの呼称を用いてEVA初号機を説明した。エヴァンゲリオンも参照。

リツコは「ヒトの造り出した究極の汎用人型決戦兵器」であり「人類最後の切り札」とEVAを称した。

CATEGORY ひ Glossary

## BX293A

ペンペンの胸にあるプレートに明記されたナンバー。これがペンペンを指す個体番号なのか、プレートとつながっている背中の機械の型式番号なのかは不明である。

プレートには、この番号と共に「PEN²」とペンペンの名前が刻印されている。

## B型装備

EVAの装備状態のひとつ。D型装備などの特殊なものではない、通常の装備状態にあることを指す。BはBasicの略であると推測される。ほかにはF型装備が確認されている。

第6使徒ガギエル戦でB型装備のまま水中に引き込まれたEVA弐号機は苦戦を強いられた。基本的に陸上戦を想定した装備らしく、水中ではま共に動くことができない模様。

## BC兵器

生物、及び化学兵器を指す。BはBiological、CはChemicalの略。生物兵器とは細菌やウイルスなどの毒性を利用した兵器で、化学兵器は毒性化学物質を利用したいわゆる「毒ガス」に代表される兵器である。いずれも致死性が強く、また無力化が困難なため不必要な大量殺戮に発展しやすい。そのため国際的批判の声が強く、ジュネーブ議定書、生物兵器禁止条約、化学兵器禁止条約等の多国間条約により製造及び使用が禁止されている。戦略自衛隊が所持しているようで、彼らがNERV本部に侵攻してきた際、青葉シゲルがこのBC兵器の使用を懸念していた。これは、戦略自衛隊がMAGIシステムを無傷で手に入れる手段として、人間だけを殺傷することが可能なBC兵器を利用するのではないかという考えからであろう。

青葉曰く、NERV本部には本格的な対BC兵器用装備は少ないとのこと。結果として使用されることはなかったが、状況を考えれば当然の懸念であったといえるだろう。

## B-09

NERV本部の西棟にある区画のひとつ。第7使徒イスラフェルへの二点同時過重攻撃の前夜、加持リョウジが葛城ミサトと強引に口づけを交わしたエレベーターが停止した区画でもある。NERV総務部による総合案内のプレートがあり、そこにはPost Office、Data Center、Science Hall、Cafeteria、Restroom、Locker、Silver Bell、Gate B-08、Gate B-14、Gate B-15、Gate B-16などの表記が見られる。

エレベーターの出入り口の正面に案内板が設けられており、本部内の施設が明記されている。

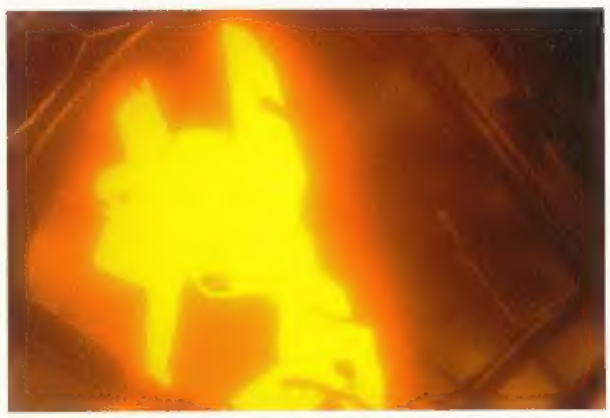
## Bダナン型防壁

赤木リツコにより構築されたMAGIシステムの自律防御プログラムで、防壁展開後62時間は外部からの侵攻が不可能となる。モニターには、防壁が突破されるまでの残り時間「TIME REMAINING TO COLLAPSE」と防壁展開後の経過時間「TIME SINCE SCREEN RAISED」が表示される。第666プロテクトも参照。

カスパーを通じてリツコによりMAGIのプロテクト作業が行なわれ、Bダナン型防壁を展開。第666プロテクトが構築された。

## 光の巨人

葛城調査隊により南極で発見された巨人の別称。国連のセカンドインパクト調査団の資料の中に直立した姿の記録があり、冬月コウゾウは「光の巨人」と呼んでいた。2000年に発生したセカンドインパクトの原因となった存在であり、第1使徒アダムとされる。



全身が発光するそのシルエットはEVAに酷似しており、胸部にはコアらしきものも見られる。

## 光の翼

セカンドインパクトが発生した際に出現したもの。葛城調査隊に同行したためにその場に居合わせた葛城ミサトは、立ち上る光を脱出カプセルから目撃した。

南極全体を覆う雲の中心部より伸びて広がる4枚の光の翼は、成層圏にまで達したようだ。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

## 装甲服と装備を強制排除するエヴァ初号機

パージされたパーツの隙間から「素体」と呼ばれる本体が見える。人工筋肉等全ての機能は電力により稼動。エヴァは単なる兵器道具として描かれるわけではない。
２０年後のリアルな近未来都市を背景に繰り広げられる、少年たちと大人たちのドラマの、重要な鍵となっている。

初号機別デザイン Bバージョン　同左 Cバージョン

KEYWORD

## 装甲服と装備を強制排除

EVAは素体となる有機体のボディに、装甲パーツを装着している。そのため、装甲から見える黒い部分は作画的な塗りつぶしではなく、素体のアンダースーツとなっており、この構造設定は企画書同様である。ただし、作中ではEVAの装甲パーツは、企画書にあった「装甲服」との名称はされていない。

旧劇場版で登場した初号機が装甲パーツを排除するシーン。この劇中のカットは、企画書に掲載されている装甲服を強制排除する初号機のイラストに極めて近い雰囲気を持った映像となっている。

素体が剥き出しとなったEVA初号機の頭部。機械よりも生物に近い雰囲気がある。設定上もEVAは機械というよりは生体兵器に近い。

EVAは"人造人間"と称するだけあり、従来のアニメーションに登場する巨大ロボットの持つ機械的なイメージは少ない。むしろ、生物兵器と捉えた方がよく、企画書ではその素体が人工筋肉等により構成された生物的なものであるために、人間と同等の高い自由度を持った関節構造を有すると記述されている。また、イラストには素体に装甲を装着するEVA特有の構造が描かれており、その姿は作中同様にEVAの装甲が実はEVAの能力を抑えるための拘束具であることを感じさせる。

KEYWORD

## 単なる兵器 道具として描かれるわけではない

エヴァのアニメーション作品としての特徴のひとつとして、初号機が主役ロボットである以上に、その本質は"得体の知れないモンスター"であるかのように扱われている点が挙げられる。また、その初号機そのものに内在された謎は、作品のテーマと直結していることも特筆すべき特色であろう。企画書からは初号機が単なるロボットを超えた存在となることが読み取れる。そして、その答えは旧劇場版『Air／まごころを、君に』において、明らかとなった。

旧劇場版「Air／まごころを、君に」での初号機。人類補完計画が発動した際、初号機から巨大な光の羽根が四方へと伸び、ロンギヌスの槍によってその身体は生命の樹へと姿を変えた。人知を越えた力の発現を印象づけるこのシーンは、初号機が作品の謎の中核を担っていたことを明確にしながら、物語を佳境へと誘う。

第弐拾伍話においてシンジの内面世界に登場した初号機の巨大なシルエット。そして、対峙する矮小なシンジ。主役ロボと主人公ではあるが、そのシーンは己の心の中に棲む悪魔にまるで飲み込まれるかのようである。

第拾六話のラストシーン。初号機はあたかも意志があるかのように自律起動し、使徒を殲滅する。使徒の体液にまみれ大地に立つ初号機の姿は、従来の兵器とは一線を画す"怪物"であることを強く印象付けるシーンとなった。

KEYWORD

## 初号機別デザイン

本編中で唯一装甲パーツ類がモディファイされるのが零号機である。第六話までは山吹色の機体だったが、大幅な改修が行なわれ、第九話からは肩に武器パイロンを装備した青色の機体となった。

第弐話より、サキエル戦後に初号機の頭部装甲パーツを回収するシーン。EVAシリーズは、基本的に頭部、装甲パーツなどが大破しても、同デザインで修復が行なわれている。

海中で活動する弐号機。EVAシリーズは、環境への対応力が高く、ほとんどの場合は装甲パーツ類を交換せず活動できる。唯一、装甲を変更したのは、マグマ内での活動時であった。

これらは企画段階でのデザインバリエーションではなく、装甲服の換装による別バージョンとも推測できる。特筆すべきは、本編とかなり異なったヘッドパーツで、一種の装備変更的な意図があったのかもしれない。弐号機の「D型装備」やゲームに登場した「F型装備」などは、この構造システムの流用と考えられる。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会